



Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

CMS 管理者、アーキテクト、開発者のためのコンセプト概要

目次

第 1 章	イントロダクション.....	6
1.1	機能	7
1.2	共通の用語	8
1.2.1	テンプレート.....	8
1.2.2	データ インフラストラクチャ	8
1.2.3	データ表現	8
1.2.4	データレポジトリ.....	8
1.3	一般情報.....	9
1.3.1	命名規則	9
	表示名およびフィールド タイトル	9
1.3.2	テンプレートのストア場所	10
第 2 章	データテンプレート.....	11
2.1	データテンプレート.....	12
2.1.1	データテンプレート フィールド	13
2.1.2	データテンプレート セクション	14
	ベーステンプレート	15
	多重継承.....	16
	循環継承.....	16
2.2	スタンダード バリュー	18
2.2.1	\$name トークン.....	19
2.2.2	ブランクと NULL のフィールド値	19
第 3 章	スタンダード テンプレート	20
3.1	スタンダード テンプレートの概要	21
3.2	スタンダード テンプレートの構造	22
3.2.1	[高度な設定] セクション	22
3.2.2	[アピアランス (外観と動作)] セクション	22
3.2.3	[ヘルプ] セクション	23
3.2.4	[レイアウト] セクション.....	23
3.2.5	[有効期間] セクション.....	23
3.2.6	[インデックス] セクション.....	24
3.2.7	[挿入オプション] セクション	24
3.2.8	[アイテム バケット] セクション	24
3.2.9	[パブリッシュ] セクション	25
3.2.10	[セキュリティ] セクション	25

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

3.2.11	[統計] セクション	25
3.2.12	[タグ] セクション	26
3.2.13	[タスク] セクション	26
3.2.14	[検証ルール] セクション	26
3.2.15	[ワークフロー] セクション	26
第 4 章	テンプレート フィールド	28
4.1	テンプレート フィールド定義アイテムについて	29
4.1.1	テンプレート フィールド テンプレート	29
	[フィールド ネーム]	29
	[タイプ]	29
	[タイトル]	30
	[ソース]	30
	[Blob (バイナリー ラージ オブジェクト)]	31
	[共有]	31
	[バージョン管理なし]	32
	[デフォルト値]	32
	[検証]	32
	[検証テキスト]	32
	[セキュリティ フィールド]	32
	[空白に戻す]	33
	[テキスト検索から除外する]	33
	[ページ エディター ボタン]	33
4.2	データテンプレートのフィールド タイプ	34
4.2.1	Analytics フィールド タイプ	34
4.2.2	Simple フィールド タイプ	34
	Checkbox フィールド タイプ	35
	Date および Datetime フィールド タイプ	35
	File フィールド タイプ	36
	Image フィールド タイプ	37
	Integer、Number、Password、Single-Line Text フィールド タイプ	38
	Multi-Line Text フィールド タイプ	38
	Rich Text フィールド タイプ	38
	Word Document フィールド タイプ	39
4.2.3	List フィールド タイプ	40
	Multilist with Search タイプ	40
	Treelist with Search タイプ	41

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

Checklist フィールド タイプ	41
Droplist フィールド タイプ	41
Grouped Droplink フィールド タイプ	42
Grouped Droplist フィールド タイプ	42
Multilist フィールド タイプ	42
Name Value List フィールド タイプ	43
Treelist および TreelistEx フィールド タイプ	43
4.2.4 Link フィールド タイプ	44
General Link with Search タイプ	44
Droplink フィールド タイプ	44
Droptree フィールド タイプ	44
General Link フィールド タイプ	45
Version Link フィールド タイプ	45
4.2.5 Developer フィールド タイプ	45
Icon フィールド タイプ	45
IFrame フィールド タイプ	46
Tristate フィールド タイプ	46
4.2.6 System フィールド タイプ	46
Query Datasource タイプ	46
Attachment フィールド タイプ	46
Custom フィールド タイプ	47
File Drop Area (FDA) フィールド タイプ	47
Internal Link フィールド タイプ	48
Layout フィールド タイプ	49
Rules フィールド タイプ	49
Security フィールド タイプ	49
Template Field Source フィールド タイプ	50
Thumbnail フィールド タイプ	50
4.3 Sitecore クエリ	51
4.3.1 一般的な構文	51
4.3.2 軸	53
4.3.3 Operators	54
4.3.4 内部アーキテクチャ	55
第 5 章 フィールドとアイテムの検証	57
5.1 検証のルールとオプションについて	58
5.2 デフォルトの検証ルール	59

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

5.2.1	アイテム検証ルール	59
5.2.2	フィールド検証ルール	59
5.2.3	システム フィールド検証ルール	61
5.3	検証オプション	62
第 6 章	挿入オプション	63
6.1	挿入オプション	64
6.1.1	効率的な挿入オプション	64
6.1.2	割り当てられた挿入オプション	64
6.1.3	挿入ルール	65
6.1.4	挿入オプション ルール	65
6.1.5	uiGetMasters パイプライン	65
6.2	ブランチ テンプレート	66
6.2.1	ブランチ テンプレートの使用	66
	ブランチ テンプレートを使用した結果	67
6.3	コマンド テンプレート	68
6.3.1	コマンド テンプレートの使用	68

第 1 章

イントロダクション

この文書では、Sitecore Web サイトに関連するインフォメーション インフラストラクチャのデザイン、実装、およびメンテナンスを行う際にアーキテクト、デベロッパー、および CMS 管理者が知っておくべき概念について説明します。

この文書には次の章があります：

- 第 1 章 — イントロダクション
- 第 2 章 — データ テンプレート
- 第 3 章 — スタンダード テンプレート
- 第 4 章 — テンプレート フィールド
- 第 5 章 — フィールドとアイテムの検証

この章には次のセクションがあります：

- 機能
- 共通の用語
- 一般情報

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

1.1 機能

この文書では、Web サイトのインフォメーション アーキテクチャを定義するとき使用するコンポーネントと概念について詳細に説明します。この文書では、次の機能と目的を詳細に説明します：

テンプレート – Sitecore ユーザーは、データ テンプレート、ブランチ テンプレートおよびコマンド テンプレートの 3 つのテンプレート タイプのいずれかを使用してアイテムを作成します。データ テンプレートは、アイテムを構築するときのフレームワークとなります。データ テンプレートを使用すると、データの入力方法を制御するフィールドを定義し、他のテンプレートから継承して再利用することができます。

フィールド – システムに入力されるデータを制御する領域です。フィールドを**セクション**にグループ化すると、システムに入力されるデータの量と型を編成して制御することができます。フィールドは、フィールド タイプ別に編成されます。

フィールド タイプ – データを入力する、またはフィールドで選択するための各種の方法です。システムにデータを入力する方法はさまざまで、フィールドで入力または選択できるデータ型を制御するのがフィールド タイプです。

データはシステム全体で検証されます。検証の種類、および各検証がデータ定義構造の妥当性と正当性を管理するために、システムのデータ定義領域の全体を網羅している点についても説明します。

スタンダード バリューを使用すると、新しく作成したアイテムにデフォルト データを自動的に挿入することができます。スタンダード バリューは、既存のアイテムの NULL フィールドに自動的に投入される、または新しく作成したアイテムにデータを指定するデフォルト値です。

ブランチ テンプレート – アイテムを 1 つずつではなく、複数のアイテムを一度に作成することができます。

コマンド テンプレート – 事前定義された構造ではなく、ロジックに従ってアイテムを挿入することができます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

1.2 共通の用語

このセクションでは、よく使用されるデータ定義のいくつかの概念について説明します。

1.2.1 テンプレート

Sitecore で使用する「テンプレート」という用語は、Sitecore で新しいデータを作成するときに使用するコンポーネントを指します。データ テンプレート、ブランチ テンプレートおよびコマンド テンプレートという用語は、それぞれ特定の種類のテンプレートを指します。テンプレートは、システムに入力されるデータのスキーマを制御します。

1.2.2 データ インフラストラクチャ

「データ インフラストラクチャ」は、データ構造を決定する Sitecore ソリューションの要素を表す用語です。データ インフラストラクチャには、スタンダード バリューを含むすべての種類のテンプレート、セキュリティなど Web サイトのインフォメーション アーキテクチャ、ユーザーが作成できる対象を制御する挿入オプション、およびその他システムの構造上の要素が含まれます。Sitecore では、データ インフラストラクチャと、コンテンツ (すなわちその構造に入力されるデータ) が区別されます。

1.2.3 データ表現

Sitecore のデータ表現には、次のような特徴があります：

- 柔軟 – Sitecore では、使用方法の簡単なブラウザー ベースのユーザー インターフェイスを使用してデータ構造を定義することができます。
- 抽象化 – データ自体には影響せずに、データ構造定義を変更することもできます。
- 階層型 – データは、暗黙的および明示的な関係を使用して構造化されます。
- XML 指向 – データは XML 表現でも提供されます。
- オブジェクト指向 – Sitecore では、階層型のオブジェクト指向の表現でもデータを提供します。

1.2.4 データ レポジトリ

Sitecore のデータ レポジトリには、さまざまなデータ サービスの機能があります。データをあらゆる言語で表すことができる一方、厳格なバージョンングとセキュリティで管理されます。システムにおけるデータ フローは、ワークフローに組み込まれる多様なカスタム ルールを使用して設定することができます。また、データの "ライブ" の Web サイトへの公開は、データの公開方法を厳密に監視および管理する各種の設定で変更が可能です。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

1.3 一般情報

このセクションでは、データ定義に関する一般情報を示します。

1.3.1 命名規則

テンプレート、フィールド、フィールド セクションに名前を付けるときは、簡潔で関連性のわかる、理解しやすい名前を使用してください。デフォルトでは、作成時に指定した名前が技術者ユーザーにも一般ユーザーにも表示されます。コンテンツオーサーなどのビジネス ユーザーにもわかりやすい名前を選択してください。

表示名およびフィールド タイトル

定義の際に Sitecore のユーザー インターフェイスに表示されるのは、実際のアイテム名ではなく表示名およびフィールド タイトルです。表示名の詳細については、『[クライアント構成クックブック](#)』を参照してください。

注意

テンプレート フィールドに名前を付けると、その名前は検索インデックスにも書き込まれます。したがって フィールド名で Title などのような一般的な名前の使用は避けるようにしてください。たとえば 2 つのフィールドを作成し、その両方に Title という名前のフィールドがある場合、インデックスは同じフィールドとして認識します。これは検索インデックスを使用する場合に Sitecore サーバーに混乱を生じさせます。

メモ

コードはフィールドを名前で参照するため、フィールドには変数やオブジェクトのプロパティに対応した名前を付けてください。ユーザーにとってわかりやすいラベルを使用するには、フィールド タイトルを使用します。

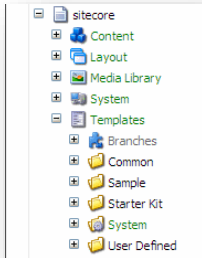
ヒント

種類を示す接頭辞または接尾辞を推奨する命名規則は避けるようにしてください。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

1.3.2 テンプレートのストア場所

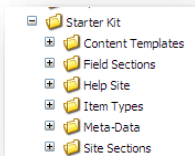
Sitecore における各種のテンプレートは、Master データベースの `/Sitecore/テンプレート` の下にアイテムとしてストアされます。



注意

Sample および User Defined フォルダーの下にあるファイルを除いて、`/Sitecore/Templates` アイテムの下にあるフォルダーやデータ テンプレートは、名前を変更したり、削除したり、その他の変更を加えたりしないでください。

Web サイトごと、機能ごと、またはその他の基準でテンプレートを分類するときは、テンプレート フォルダーを作成します。次の図に、Sitecore Starter Kit のテンプレート フォルダー構造を示します。



第 2 章

データ テンプレート

この章では、データ テンプレートとスタンダード バリューについて説明します。データ テンプレートは、あるタイプのアイテムの構造を多数のフィールドとして定義します。データ テンプレートのスタンダード バリューアイテムが、そのデータ テンプレートで定義されているフィールドのデフォルト値になります。

この章には次のセクションがあります：

- データ テンプレート
- スタンダード バリュー

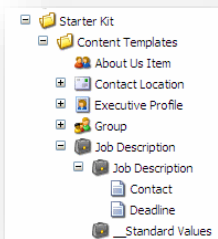
Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

2.1 データ テンプレート

データ テンプレートは、データ型を定義します。Sitecore はデータ テンプレートを各アイテムに関連付けます。データ テンプレートは、そのデータ テンプレートに関連付けられたすべてのアイテムの構造を定義します。

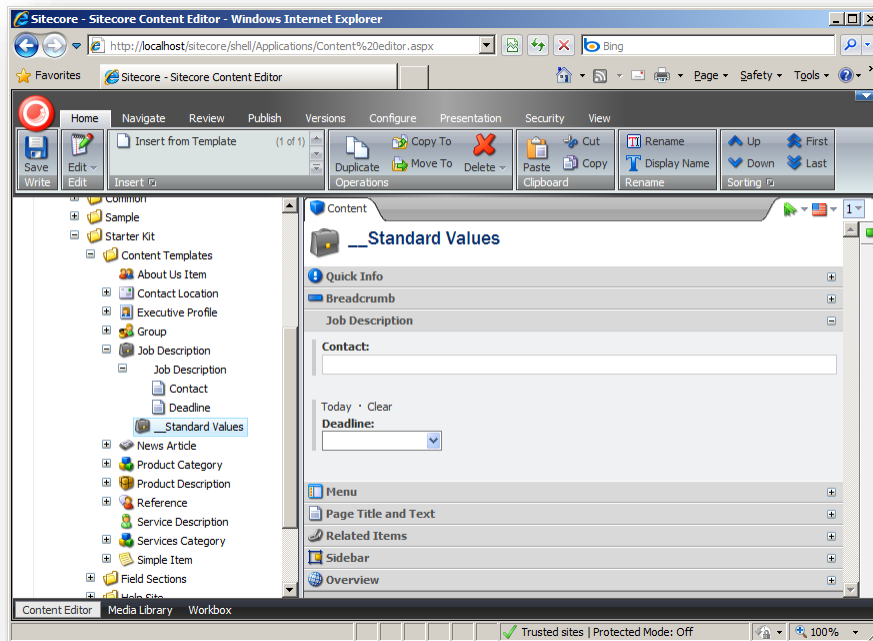
データ テンプレートには多くのデータ テンプレート セクションがあり、そのそれぞれに多くのデータ テンプレート フィールドがあります。データ テンプレート セクションの詳細については、「データ テンプレート セクション」のセクションを参照してください。データ テンプレート フィールドの詳細については、「データ テンプレート フィールド」のセクションを参照してください。データ テンプレート セクションによって、ユーザー インターフェイスを編集する際にデータ テンプレート フィールドが視覚的に整理されます。データ テンプレート フィールドは、そのデータ テンプレートに基づいてアイテムの構造を定義します。

データ テンプレートは、定義アイテムの階層として表されます。ルート アイテムがテンプレートを、その子がフィールド セクションを、その孫がフィールドをそれぞれ定義します。



この例では、Job Description というデータ テンプレートが開かれて Job Description というフィールド セクションがその直下であり、このフィールド セクションの下に Contact および Deadline の各フィールドがあります。これらは、このデータ テンプレートに関連付けられたアイテムを編集するときに表示されるセクションおよびフィールドに対応しています。次の図は、Job Description データ テンプレートのスタンダード バリュースタンドアアイテムを示したもので、これはこのデータ テンプレ

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス
トに基づいた (関連付けられた) アイテムです。



オブジェクト指向プログラミングでは、データ テンプレートがクラスに該当し、データ テンプレート フィールドがクラスのプロパティに当たります。リレーショナル データベース プログラミングでは、データ テンプレートがテーブルに該当し、データ テンプレート フィールドがそのテーブルの列に当たります。

各データ テンプレートは、ゼロ以上のベース データ テンプレートを継承し、それがベース テンプレートを指定します。上の図では、ベース テンプレートで定義されているフィールドを含むセクションが折り畳まれています。ベース テンプレートの詳細については、「ベース テンプレート」のセクションを参照してください。

ユーザー インターフェースでは、データ テンプレートのデータ テンプレート セクションおよびフィールドと、すべてのベース テンプレートが組み合わせられます。データ テンプレートは、連続継承や多重継承に対応しています。

ほとんどのデータ テンプレートは最終的に Sitecore スタンダード テンプレートを継承し、スタンダード テンプレートではすべてのアイテムに共通のフィールドが定義されています。スタンダード テンプレートの詳細については、「スタンダード テンプレート」を参照してください。

データ テンプレートに対する変更は、データ テンプレートに基づいて、またはそのデータ テンプレートから継承するデータ テンプレートに基づいて、すべてのアイテムでただちに反映されます。

2.1.1 データ テンプレート フィールド

データ テンプレートのフィールドは、データ テンプレート から作成された個々のデータ エレメントのプロパティを定義します。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

データ テンプレート フィールドは、コンテンツ エディターおよびページ エディターにおけるフィールドの動作に影響するユーザー インターフェイス コントロールなどのプロパティを定義します。フィールドの詳細については、「テンプレート フィールド」を参照してください。

メモ

フィールド名を定義する際には、フィールド セクション間であっても重複しないようにしてください。これは、XSLT と .NET のコードはどちらも、セクションを参照せずに単独でフィールド名を使用し、フィールドからコンテンツを抽出するためです。

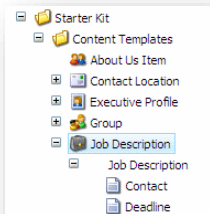
2.1.2 データ テンプレート セクション

データ テンプレート セクションは、フィールドを関連グループに整理します。フィールドは常にセクションにストアされます。ただし、セクションが反映されるのはコンテンツ エディターのみです。プログラマーは、フィールドからコンテンツを抽出するときにセクションを指定する必要はありません。

セクションを使用してフィールドを論理上のグループにまとめると、コンテンツ オーサーにとって検索も使用も容易になります。

1 つのセクションと関連する複数のフィールドを持つデータ テンプレートを作成し、複数あるベース テンプレートの 1 つとして使用することを考慮してください。これにより、フィールドの標準セクションを複数持つ新しいデータ テンプレートの構築が容易になります。

セクション定義アイテムは、対応するデータ テンプレート定義アイテムの下にストアされます。次の図では、Job Description というデータ テンプレートがあり、**Job Description** セクションがその直下にあり、その中に **Contact** および **Deadline** の各フィールドがあります。



データ テンプレートに関連付けられているアイテムを編集するときは、各セクションが折り畳み可能なフィールド グループとしてコンテンツ エディターに表示されます。

セクション定義の **Section Name** フィールドは、コンテンツ エディターでセクションのラベルとして使用されます。セクション名はローカライズが可能です。

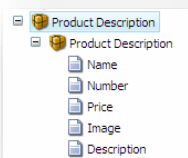
Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

ベース テンプレート

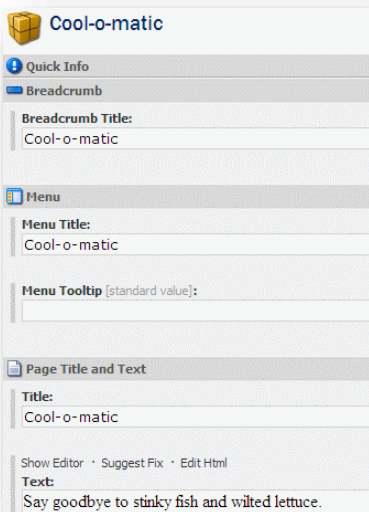
データ テンプレートは、そのベース テンプレートで定義されているセクションとフィールドを継承します。データ テンプレートに関連付けられたベース テンプレートは、テンプレート マネージャーまたはコンテンツ マネージャーの [継承] タブに表示されます。

一連のフィールドまたはセクションが多くのテンプレートに共通している場合には、1 つのデータ テンプレートにまとめ、必要に応じてそのテンプレートを他のテンプレートに追加することができます。

たとえば、Sitecore Starter Kit の Product Description データ テンプレートについて考えてみます。このデータ テンプレートには、Product Description という 1 つのセクションと、Name、Number、Price、Image、および Description の 5 つのフィールドが定義されています。

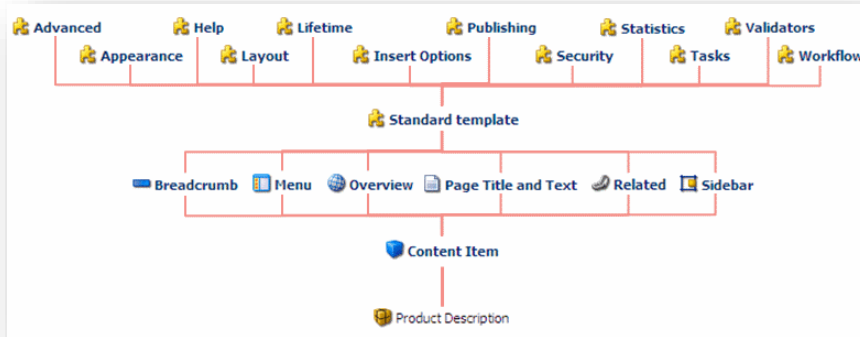


ただし、このテンプレートから作成されるアイテムには、追加のセクションとフィールドが含まれています。



このアイテムは、これらのフィールドとセクションを Product Description データ テンプレートのベース テンプレートから継承しています。次の図は、Product Description データ テンプレートに関連付けられたベース テンプレートの階層を表

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス
しています。



多重継承

データ テンプレートは、1 つのみに限らず任意の数のデータ テンプレートをベースにすることも可能です。継承される複数のテンプレートに、同じフィールドやフィールド セクションが含まれていることもあります。この場合は重複を避けるため、UI によってこれらのフィールドやフィールド セクションがマージされます。

メモ

データ テンプレートが 1 つのデータ テンプレートを複数回継承した場合、最初のベース テンプレート以外はすべて無視されます。

循環継承

データ テンプレートが、間接的にでも直接的にでもそれ自身をベースにしている場合は、循環継承と呼ばれます。循環継承は、重大な問題の原因になります。

次のような兆候が現れます：

- 特にデータ テンプレートの操作中にシステムが応答しなくなる。
- ASP.NET でアプリケーション エラーが発生する。
- ログ エントリーにテンプレートの循環継承が検出されたと記録される。

テンプレートの循環継承は、スタンダード テンプレートやそのベース テンプレートに関連付けられているベース テンプレートをデベロッパーが変更すると頻繁に発生します。システムで用意されているデフォルトのテンプレートは変更しないでください。/Sitecore/テンプレート/システム ブランチの下にあるテンプレートを変更すると、循環継承の危険があるだけでなく、Sitecore のアップグレード プロセスが煩雑になったり、その他の問題が発生する可能性があります。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

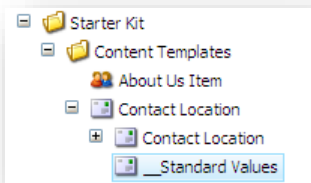
他のテンプレートから明示的に継承していないテンプレートも、Sitecore のスタンダード テンプレートから暗黙的に継承します。スタンダード テンプレートは、`/Sitecore/テンプレート/システム/テンプレート/Sections` で定義されている多くのテンプレートから継承し、それぞれにスタンダード テンプレートのセクションが定義されています。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

2.2 スタンダード バリュー

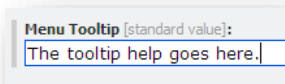
スタンダード バリューは、データ テンプレート フィールドのデフォルト値になります。フィールドの値が NULL の場合、アイテムのそのフィールドには、データ テンプレートでそのアイテムに定義されているスタンダード バリューが含まれます。

各データ テンプレートのスタンダード バリューは、__Standard Values という名前のデータ テンプレート定義アイテムの子としてストアされています。各 __Standard Values アイテムは、その親データ テンプレート定義アイテムによって定義されたデータ テンプレートに基づきます。次の図は、ユーザーが Contact Location データ テンプレートを展開したところです。データ テンプレートには、Contact Location データ テンプレート セクション定義アイテムと、Contact Location データ テンプレートの __Standard Values アイテムが含まれています。



スタンダード バリューアイテムには、データ テンプレートに基づくアイテムと同様に、データ テンプレート自体で定義されているすべてのフィールドと、ベース テンプレートから継承されたフィールドが含まれています。スタンダード バリューアイテムには、データ テンプレートに基づいたアイテムのデフォルト フィールド値が含まれています。スタンダード バリューは、アイテムのフィールド値が NULL に設定されたときに使用されます。

コンテンツ エディターでアイテムを表示する場合、スタンダード バリューを含む任意のフィールドにはフィールド タイトルの横にトークン [スタンダード バリュー] が付きます (図を参照)。



スタンダード バリューは、アイテムが直接基づくベース テンプレートに限らず、どんなベース テンプレートからも継承することができます。

ヒント

管理の負荷を軽減し、システム設定を一元管理するために、次の項目は個々のアイテムではなくテンプレートのスタンダード バリューで定義することをお勧めします:

- レイアウト設定
- 初期ワークフロー
- 挿入オプション。

メモ

フィールドのスタンダード バリューが、アイテムに基づく複数のテンプレートのスタンダード バリュー アイテムに設定されている場合は、継承リストの最初のテンプレートからの値のみが使用されます。他のテンプレートからの値は無視されます。

2.2.1 \$name トークン

Sitecore では、スタンダード バリューで \$name トークンを使用することができます。\$name トークンは、作成中にアイテムの名前に置き換えられます。ただし、この置換が行われるのはアイテムの作成時のみです。アイテム名がフィールドのコンテンツになり、それがスタンダード バリューの \$name トークンを置き換えます。

メモ

ユーザーがアイテム名を変更した場合でも、\$name トークンは再評価されません。このため、\$name を使用して値を割り当てられたフィールドには、アイテム名の変更後にも元のアイテム名が表示されます。\$name トークンを使用して設定されたフィールド値をリセットした場合、フィールドには \$name 値が表示されるため、ユーザーがフィールド値を適切な内容に設定する必要があります。

2.2.2 ブランクと NULL のフィールド値

コンテンツ オーサーがテキスト フィールドなどのフィールドをクリアすると、フィールドのコンテンツがブランクになることがよくありますが、これは NULL と同じではありません。デフォルトでは、このようなフィールドには、フィールドに定義されているスタンダード バリューではなくブランク値が表示されます。

ただし、フィールド定義アイテムには [ブランクをリセット] というチェックボックスがあります。これを選択するとブランク値が NULL に置き換えられます。このため、[ブランクをリセット] を有効にしてユーザーが個々のアイテムのフィールドのコンテンツをブランクにすると、そのアイテムのフィールド値は NULL にリセットされ、コンテンツ エディターにはフィールドのスタンダード バリューが表示されます。

第 3 章

スタンダード テンプレート

この章では、Sitecore スタンダード テンプレートについて詳細に説明します。

この章には次のセクションがあります：

- スタンダード テンプレートの概要
- スタンダード テンプレートの構造

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

3.1 スタンダード テンプレートの概要

スタンダード テンプレートは Sitecore のデフォルトのベース テンプレートで、大部分のデータ テンプレートによって共有されます。共有は、継承によって明示的に行うか、(NULL の GUID をベース テンプレートとして指定して) 継承から除外するように明示しない限り、暗黙的に行われます。テンプレートでベース テンプレートを指定しない場合、デフォルトでは Sitecore スタンダード テンプレートから直接継承します。

スタンダード テンプレートでは、すべてのタイプのアイテムに関するセキュリティやワークフローなどのセクションが定義されています。アイテムをいつ公開するか、どのワークフローにあるか、どのユーザーがアクセスできるかなど、アイテムの管理方法が定義されます。

ほとんどのテンプレートは、直接でも間接でも "最終的" にスタンダード テンプレートに基づく必要があります。

Quick Info セクションは、管理者ユーザーおよびデベロッパー ユーザーに最初に表示されるテンプレートのセクションであり、スタンダード テンプレートのフィールド セクションです。このフィールド セクションには、アイテム位置の詳細、コンテンツ構造におけるテンプレート位置、ストレージ関連の各種 GUID が含まれています。

スタンダード テンプレートのほとんどのフィールドは、全言語の全バージョンで共有されるシステム値を表します。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

3.2 スタンダード テンプレートの構造

ここからのセクションでは、スタンダード テンプレートの各フィールドについて詳細に説明します。

重要

スタンダード テンプレートのフィールド名の先頭には、すべて二重下線が付いています。これらのフィールドには、Sitecore.FieldIDs クラスのプロパティからアクセスしてください。

3.2.1 [高度な設定] セクション

[高度な設定] セクションは、データ テンプレートをスタンダード バリューアイテムに関連付けます。

- [スタンダード バリュー] - このフィールドには、スタンダード バリューアイテムへのリンクが含まれます。
- [トラッキング] - このフィールドには、アナリティクス プロファイル情報が含まれます。
- [ソース] - このフィールドには、クローンされたアイテムが含まれます。

3.2.2 [アピアランス (外観と動作)] セクション

[アピアランス (外観と動作)] セクションは、コンテンツ エディターでのアイテムの表示方法を制御します。

- [コンテキスト メニュー] - このフィールドには、ユーザーがコンテンツ エディターのコンテンツ ツリーでアイテムを右クリックしたとき表示されるメニューへのリンクがあります。
- [表示名] - このフィールドは、コンテンツ エディターのアイテム名より優先されます。
- [エディター] - このフィールドは、アイテムのカスタム エディターを定義します。
- [カスタム エディター設定] - このフィールドは、コンテンツ エディターに表示されるカスタム エディターのタブを制御します。
- [非表示] - このフィールドは、アイテムがコンテンツ エディターに表示されるかどうかを制御します。非表示アイテムの表示状態は、コンテンツ エディターでメイン リボンの [表示] タブにある [非表示アイテム] チェックボックスを選択して管理することができます。
- [アイコン] - このフィールドは、コンテンツ エディターのコンテンツ ツリーと、アイテムのヘッダーで表示されるアイコンを制御します。
- [読み取り専用] - このフィールドは、アイテムを読み取り専用で表示するかどうかを制御します。
- [リボン] - このフィールドは、コンテンツ エディターのリボンのカスタマイズ方法を制御します。
- [スキン] - このフィールドは、フォーマット情報とアイテムを関連付けます。
- [並び替え順序] - このフィールドは、フィールドの表示順序を指定する際に使用します。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

- **[スタイル]** — このフィールドは、フォーマット情報とアイテムを関連付けます。
- **[サブアイテムの並べ替え順序]** — このフィールドは、アイテムの子を並べ替えるときのルールを制御します。
- **[サムネイル]** — このフィールドは、サムネイル画像をアイテムと関連付けます。
- **[オリジネーター]** — このフィールドは、アイテムの作成に使用されたブランチ テンプレートを示します。

3.2.3 [ヘルプ] セクション

[ヘルプ] セクションには、アイテムについて役立つ情報がストアされています。

- **[ヘルプ リンク]** — このフィールドには、このアイテムの詳細なヘルプへのリンクが含まれます。
- **[説明]** — このフィールドには、コンテンツ ツリーでアイテムにマウスを重ねたとき表示されるポップアップ ヘルプが含まれます。
- **[概要]** — このフィールドには、コンテンツ エディターのアイテムのヘッダーに表示される説明が含まれます。

3.2.4 [レイアウト] セクション

[レイアウト] セクションは主として、データ テンプレートにレンダリングを関連付けるために使用されます。

- **[レンダリング]** — このフィールドには、このアイテムの表示に使用されるレンダリングが含まれます。
- **[レンダラー]** — このフィールドには、このアイテムの表示に使用されるレンダラーが含まれます。
- **[レイアウト プリセット]** — このフィールドには、アイテムに使用できるレイアウト プリセットが含まれています。

メモ

[レンダリング] フィールドは管理 Web サイトによって使用されます。[レンダラー] フィールドは Sitecore ユーザー インターフェースの一部のコンポーネントによって使用されます。

3.2.5 [有効期間] セクション

[有効期間] セクションは、このアイテムの各バージョンに対する公開制限を保持するために使用されます。

- **[開始日時]** — このフィールドには、このバージョンの公開が有効になる開始日付が含まれます。
- **[終了日時]** — このフィールドには、このバージョンの公開が有効な最終日付が含まれます。
- **[バージョンを非表示にする]** — このフィールドは、このバージョンを公開から隠すかどうかを制御します。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

3.2.6 [インデックス] セクション

[インデックス] セクションは、ファセットとブースト設定を構成するために使用されます。

- **[ブースト値]** — このフィールドには、1.0, 2.3 または 0.1 などの、浮動小数のブースト値が含まれます。ゼロ以上の値は、検索結果を上部に引き上げます。ゼロ以下の値は検索結果を下に引き下げます。
- **[ブースト ルール]** — このフィールドでは、ブーストのルールを設定することができます。ブースティングによってアイテムを結果の上部に引き上げることができます。ブーストについての追加情報は、『*Sitecore Search and Indexing Guide*』を参照してください。
- **[ファセット]** — このフィールドには、このアイテムから検索を開始すると表示されるファセットが示されます。このフィールドを使ってそのアイテムと関連付けられたファセットを移動または削除します。

3.2.7 [挿入オプション] セクション

[挿入オプション] セクションは、一連の [挿入ルール] と [挿入オプション] を保持するために使用されます。

- **[挿入ルール]** — このフィールドには挿入フィールドが含まれます。
- **[挿入オプション]** — このフィールドには挿入オプションが含まれます。

3.2.8 [アイテム バケット] セクション

[アイテム バケット] セクションには、アイテム バケットに変換またはバケット可能にされたアイテムの設定が含まれます。

- **[バケットの親の参照]** — このフィールドには、親アイテムへの Path が表示されます。アイテム バケットまたはバケット可能アイテムを元に戻す場合、この Path を使用して親アイテムへの接続を復元します。
- **[バケット化されたアイテム]** — このチェックボックスが選択されている場合、そのアイテムはバケットであることを意味します。これはシステム フィールドで、手動での設定はできません。
- **[バケット化を許可]** — このフィールドを選択してアイテムをバケットに含めることを可能にします。
- **[階層構造を維持してバケット管理を行わない]** — アイテムが子を持つ場合、このフィールドを使って、子をバケットに追加または子として保持するか否かを選択することができます。
- **[デフォルト バケット クエリ]** — このフィールドでは、検索タブを開く際に使用されるデフォルトのクエリを指定し、そのクエリの結果に一致するアイテムのリストを表示することができます。
- **[永続的なバケット フィルター]** — このフィールドでは、クエリを削除できない検索フィールドに追加することができます(したがって常に検索の一部)
- **[利用可能なビュー]** — このフィールドには、検索結果を表示するのに有効なビューが表示されます。このフィールドを使用してビューを追加または削除します。デフォルトではグローバルで有効なビューが 3 つあります。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

- **[デフォルト ビュー]** — このフィールドには、ビューのリストが表示され、その中からひとつをデフォルトとして選択することができます。
- **[クイック アクション]** — このフィールドには、検索結果に表示されたアイテムと関連付けることができるアクションが含まれます。たとえば、ダウンロード、プレビュー、またはパブリッシュなどがあります。クイックアクション アクションについての追加情報は、マニュアル『*Developer's Guide to Item Buckets and Search*』を参照してください。

3.2.9 [パブリッシュ] セクション

[パブリッシュ] セクションは、公開の制限情報を保持するために使用されます。

- **[パブリッシュ期間 開始日時]** — このフィールドには、このアイテムの公開が有効になる開始日付が含まれます。
- **[パブリッシュ期間 終了日時]** — このフィールドには、このバージョンの公開が有効な最終日付が含まれます。
- **[パブリッシュ ターゲット]** — このフィールドには、アイテムで有効な公開のターゲットが含まれます。
- **[パブリッシュ禁止]** — このフィールドは、アイテムを公開するかどうかを制御します。[パブリッシュしない] は、[パブリッシュ] および [パブリッシュの解除] より優先されます。

3.2.10 [セキュリティ] セクション

[セキュリティ] セクションは、セキュリティ設定を保持するために使用されます。

- **[所有者]** — このフィールドには、アイテムの現在の所有者であるユーザーの名前が含まれます。仮想の Creator-Owner ロールで使われます。
- **[セキュリティ]** — このフィールドには、アイテムのセキュリティ アクセス権が含まれます。

3.2.11 [統計] セクション

[統計] セクションは、作成、リビジョン、更新に関する基本的な統計を保持するために使用されます。

- **[作成日時]** — このフィールドには、アイテムが作成された日時が含まれます。
- **[作成者]** — このフィールドには、アイテムを作成したユーザーの名前が含まれます。
- **[リビジョン]** — このフィールドには、GUID テキスト文字列としてストアされるリビジョン番号が含まれます。
- **[更新日時]** — このフィールドには、アイテムが最後に更新された日時が含まれます。
- **[更新者]** — このフィールドには、前回の更新を実行したユーザーの名前が含まれます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

3.2.12 [タグ] セクション

[タグ] セクションには、アイテム間の関連付けを行うために使用されるワードまたはフレーズが含まれていて、Sitecore 検索でのアイテム検索を容易にします。

- [セマンティクス] – このフィールドでは、タグとして使用するワードまたはフレーズを入力することができます。

3.2.13 [タスク] セクション

[タスク] セクションは、関連付けられたタスクに関するリマインダー情報を保持し、アーカイブ日をストアするために使用されます。

- [アーカイブ日時] – このフィールドには、アイテムがアーカイブされる日付が含まれます。
- [リマインダー日時] – このフィールドには、リマインダー Email がリマインダー受信者に送信される日付が含まれます。
- [リマインダーの受信者] – このフィールドには、リマインダーの受信者の Email アドレスが含まれます。Email アドレスが複数の場合には、セミコロン (;) で区切って指定することができます。
- [リマインダー テキスト] – このフィールドには、リマインダー Email の本文が含まれます。

3.2.14 [検証ルール] セクション

[検証ルール] セクションは、検証ルールを保持するために使用されます。

- [クイック アクション バー用の検証ルール] – このフィールドには、クイック アクション バーに表示されるアイテム検証ルールが含まれます。
- [検証ボタン用の検証ルール] – このフィールドには、コンテンツ ツリーの [レビュー] タブの [校正] グループにある [検証] ボタンで使用されるアイテム検証ルールが含まれます。
- [検証バー用の検証ルール] – このフィールドには、コンテンツ エディターの右側の [検証] バーに表示されるアイテム検証ルールが含まれます。
- [ワークフロー用の検証ルール] – このフィールドには、ワークフロー検証で使用されるアイテム検証ルールが含まれます。
- [除外する検証ルール] – このフィールドは、グローバルなアイテム検証ルールを無効にします。

3.2.15 [ワークフロー] セクション

[ワークフロー] セクションは、ワークフロー状態の情報を保持するために使用されます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

- **[ワークフロー]** – このフィールドには、アイテムのワークフロー状態が含まれます。
- **[ワークフロー状態]** – このフィールドには、アイテムの現在のワークフロー状態が含まれます。
- **[ロック]** – このフィールドには、アイテムがロックされているかどうかの状態、ロックしているユーザー、およびロックされた日時に関する情報が含まれます。
- **[デフォルト ワークフロー]** – このフィールドには、このテンプレートから作成されるアイテムのデフォルトのワークフローに関する情報が含まれます。

第 4 章

テンプレート フィールド

この章では、データ テンプレート フィールド定義アイテムと、データ テンプレート フィールドに関連付けられる各フィールド タイプの詳細について説明します。また、特定のデータ テンプレート フィールド定義アイテムのソース プロパティで使用する必要のあるクエリ構文についても説明します。

この章には次のセクションがあります：

- テンプレート フィールド定義アイテムについて
- データ テンプレートのフィールド タイプ
- Sitecore クエリ

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

4.1 テンプレート フィールド定義アイテムについて

データ テンプレート フィールドは、コンテンツ エディターおよびページ エディターにおけるフィールドの動作に影響するユーザー インターフェイス コントロールなどのプロパティを定義します。主としてフィールドの構造を制御する目的で使用され、フィールドにデータを入力するときの自動エラー チェック機能を提供します。

テンプレート フィールドは、オブジェクト指向プログラミングにおけるプロパティ、あるいはリレーショナル データベースにおける列に相当します。

テンプレートの各フィールドはセクション内に存在する必要があります。フィールドはセクションによって、再利用可能な論理グループに整理されます。テンプレート セクションの詳細については、「データ テンプレート セクション」を参照してください。

4.1.1 テンプレート フィールド テンプレート

フィールド定義アイテムは、テンプレート フィールド テンプレートに基づいています。各テンプレート フィールド定義アイテムでは、多くのフィールド プロパティが定義されます。

[フィールド ネーム]

フィールド ネームはフィールドの作成時に割り当てられ、[タイトル] フィールドを指定しない場合に、フィールドのラベルとして使用されます。

ヒント

フィールドを名前参照するときにはコードを読みやすくするように、変数名などのフィールド名には特殊文字を使用しないでください。

メモ

フィールド ネームは固有のものである必要があります。1 つのデータ テンプレートで複数のフィールドを同じ名前で定義すると、データ テンプレートを保存するときに検証エラーが発生します。ただし、フィールドはベース テンプレートから継承されることもあり、その場合にはアイテムで複数のフィールドが同じ名前になる可能性があります。このような場合、コンテンツ エディターには両方のフィールドが表示されますが、プログラマーは API および XSLT レンダリングを使用するときフィールド名でコンテンツを取得するため、予期しない結果を得ることがあります。

このテンプレートの [Data] セクションのこれらのフィールド プロパティには次が含まれます。

[タイプ]

フィールド タイプでは、ユーザー インターフェイスのどのコントロールをコンテンツ エディターに表示してそのフィールドへの入力を受け入れるかを指定し、そのフィールドのストレージ フォーマットも制御します。フィールド タイプの詳細については、「データ テンプレートのフィールド タイプ」を参照してください。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

[タイトル]

タイトルは、ブランクでない限りコンテンツ エディターでフィールドの上に表示されます。ブランクの場合はフィールド名が表示されます。

[ソース]

ソース プロパティは、コンテンツ エディターのフィールドに関連付けられたユーザー インターフェース コントロールに影響する情報を提供します。ソース フィールドの動作は、フィールドのタイプによって異なります。

次にいくつか例を挙げます：

- Droplink などのリスト フィールド タイプの場合、フィールドで表示されるリストの項目が並ぶコンテンツ ツリーでの位置をソース プロパティに指定します。
- イメージやファイル タイプの場合、ソース プロパティにはメディア ライブラリ ダイアログで表示される開始フォルダーを指定します。

メモ

パスの先頭にチルダ (~) 文字を指定すると、ダイアログは選択した目的のフォルダーで開きますが、ユーザーがツリー全体にアクセスできます。

- リッチ テキスト フィールド定義の場合、ソース プロパティで指定するアイテムには、編集インターフェースで提供される機能を制御する HTML エディター プロファイルを指定します。
- 選択フィールドの場合、フィールドのソース プロパティには、次の例で示すように実際のクエリ文の前に `query:` 接頭辞を使用する Sitecore クエリを指定することができます。Sitecore クエリの構文の詳細については、「Sitecore クエリ」のセクションを参照してください。

```
query:/sitecore/content/Home/Employees/* [ startswith(@EmployeeName, 'A') ]
```

ソースに設定できるパラメーター

Treelist や TreelistEx などの Various フィールドでは、Source プロパティで SitecoreQuery の代替として使用される次のパラメーターがサポートされています。

- **DataSource** – フィールドのデータ ソース アイテム。前述したようにフィールドのソース プロパティとしてパスを指定するのと同じです。
- **DatabaseName** – データ ソース アイテムを含むデータベースの名前。
- **IncludeTemplatesForSelection** – ユーザーはこのカンマ区切りのテンプレート名のリストに関連付けられているアイテムを選択することができます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

- **ExcludeTemplatesForSelection** – ユーザーはこのカンマ区切りのテンプレート名のリストに関連付けられているアイテムを選択することができません。
- **IncludeTemplatesForDisplay** – ユーザーはこのカンマ区切りのテンプレート名のリストに関連付けられているアイテムをナビゲートすることができます。
- **ExcludeTemplatesForDisplay** – ユーザーはこのカンマ区切りのテンプレート名のリストに関連付けられているアイテムをナビゲートすることができません。
- **IncludeItemsForDisplay** – ユーザーはこのカンマ区切りの ID 名のリストに対してアイテムを表示することができます。
- **ExcludeItemsForDisplay** – ユーザーはこのカンマ区切りの ID 名のリストに対してアイテムを表示することができません。
- **AllowMultipleSelection** – ユーザーは複数のアイテムを選択することができます。

ソース プロパティでは複数のパラメーターを、次の例のようにアンパサンド (&) 文字で区切ることができます。

```
DataSource=/sitecore/content/home&IncludeTemplatesForSelection=section,sitemap
```

[Blob (バイナリー ラージ オブジェクト)]

このフィールドは Sitecore の内部利用に限定され、使用できません。

[共有]

このチェックボックスを選択すると、サポートされている全言語の各バージョンでフィールドの値が同じになります。[共有] プロパティを設定すると、どの言語またはどのバージョンのアイテムにおけるフィールド値の変更も、他のすべての言語とすべてのバージョンで反映されます。

共有値を考慮する必要があるのは、次の場合のみです：

- フィールドの古い値に関連性がない場合。
- ワークフロー制限がフィールド値に適用されない場合。
- 値が非常に大きい (バージョンングでストレージを消費している) 場合。

メモ

[共有] チェックボックスと [バージョン管理なし] チェックボックスの両方を選択した場合は、フィールドが共有されます。全言語の全バージョンのアイテムが、このフィールドで 1 つの値を共有します。[バージョン管理なし] フィールドの詳細については、「[バージョン管理なし]」のセクションを参照してください。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

メモ

ワークフローと公開の制限は、共有されたフィールドの値には適用されません。

[バージョン管理なし]

このチェックボックスを選択すると、1 つの言語の各バージョンではフィールドの値が同じになりますが、言語ごとには値が異なります。[バージョン管理なし] のフィールドは共有フィールドと似ていますが、言語が異なれば異なるフィールド値が保持されます。

メモ

[共有] チェックボックスと [バージョン管理なし] チェックボックスの両方を選択した場合は、フィールドが共有されます。全言語の全バージョンのアイテムが、このフィールドで 1 つの値を共有します。共有フィールドの詳細については、「[共有]」のセクションを参照してください。

メモ

ワークフローと公開の制限は、共有されたフィールドの値には適用されません。

[デフォルト値]

このフィールドは Sitecore の内部利用に限定され、使用できません。

[検証]

このフィールドには正規表現を指定することができます。フィールドを保存するとき、フィールドの内容がこの正規表現と比較して検証されます。フィールドを保存するには、フィールドの値がこの正規表現と一致する必要があります。

[検証テキスト]

フィールドを保存しようとしたときにフィールドの内容が [検証] フィールドの正規表現と一致しない場合、このメッセージが表示されます。

[セキュリティ フィールド]

このフィールドは、フィールド定義アイテムの [セキュリティの割り当て] ダイアログを開きます。フィールド読み取りとフィールド書き込みのアクセス権が適用されます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

[空白に戻す]

[空白に戻す] チェックボックスを選択すると、このフィールドをブランクに設定してアイテムを保存したとき、フィールド値が NULL にリセットされます。NULL フィールドでは、フィールドのスタンダード バリューが反映されます。ブランクと NULL のフィールドの詳細については、「ブランクと NULL のフィールド値」のセクションを参照してください。

[テキスト検索から除外する]

このチェックボックスを選択すると、このフィールドは検索インデックスに含まれません。

[ページ エディター ボタン]

このフィールドでは、ページエディターでこのフィールドと関連付けられるコントロールを選択することができます。

メモ

テンプレート フィールドの追加の値は、[検証ルール]、[Appearance]、[ヘルプ]、[セキュリティ]、[統計]、[ワークフロー] セクションでも確認できます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

4.2 データ テンプレートのフィールド タイプ

各フィールドにはフィールド タイプが関連付けられています。各フィールドのタイプは次の内容を制御します：

- Sitecore がコンテンツ エディターやページ エディターなどのユーザー インターフェースのフィールドに表示するユーザー インターフェース コンポーネント。
- フィールドにストアされる値のフォーマット。
- `Sitecore.Data.Fields` ネームスペース、`renderField` パイプライン、`FieldRenderer` Web コントロールのクラスなど、デベロッパーがフィールド値にアクセスするとき使用する .NET のクラスとプログラミング手法。

データベース メディアのバイナリー コンポーネントを除外すると、すべてのフィールド値はテキストとしてストアされます。単一行テキストなど一部のフィールド タイプには、単純なテキスト値がストアされます。Multilist など、それ以外のフィールド タイプは、選択した Sitecore アイテムの GUID を、パイプ文字 (|) で区切ってストアします。複合フィールド タイプには通例、XML エLEMENTがストアされます。Image フィールドには、他のイメージ プロパティを表す属性とともに 1 つの XML エLEMENTが含まれます。レイアウト詳細のストアに使用されるフィールドには、さらに複雑な XML 構造が含まれます。

データ テンプレートにカスタムのユーザー インターフェースを実装するには、IFrame フィールド タイプを使用して、またはカスタム エディターを実装して、カスタム フィールド タイプを実装します。IFrame フィールド タイプの詳細については、「IFrame フィールド タイプ」のセクションを参照してください。

デベロッパーが適切なフィールド タイプを選択しやすいように、Sitecore のフィールド タイプは次の各セクションで説明するカテゴリに分類されています。

4.2.1 Analytics フィールド タイプ

Analytics フィールド タイプは、Sitecore で内部的に利用されます。

注意

Analytics フィールド タイプは使用しないでください。

4.2.2 Simple フィールド タイプ

Simple フィールド タイプは、個々の値を表します。個々の値には、Image フィールドの属性、あるいは Rich Text フィールドのイメージやリンクなど複数のプロパティを指定することができます。Sitecore には、次に説明する Simple フィールド タイプがあります。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

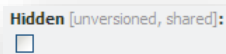
Checkbox フィールド タイプ

このフィールド タイプにはトグル ボタンが表示されます。ユーザーがチェックボックスを選択した場合は、値 1 (数字の 1) が入ります。ユーザーがチェックボックスを選択しない場合は、ブランク値が入ります。

ヒント

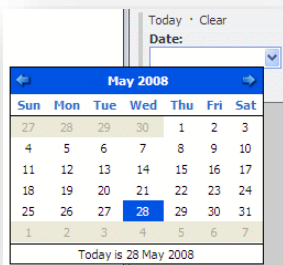
Checkbox フィールドでリテラル値 1 をチェックするか、`Sitecore.Data.Fields.CheckboxField.Checked` などのプロパティを使用します。Checkbox フィールドの値を `NULL`、`String.Empty`、0 (数字のゼロ)、または 1 以外の値と比較しないでください。

次の図は、**スタンダード テンプレート**の **[アピランス (外観と動作)]** セクションにある **[非表示]** という名前のチェックボックスを示しています。



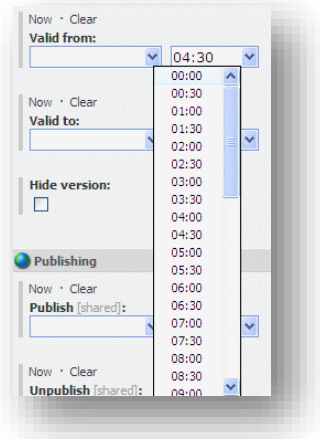
Date および Datetime フィールド タイプ

Date フィールド タイプは、日付を手動で選択または入力できるユーザー インターフェースを提供します。Datetime フィールド タイプは、時間を手動で選択または入力するユーザー インターフェースを追加します。内容は `yyyyMMddThhmmss` というフォーマットでテキスト文字列としてストアされます。ユーザーが時刻を入力しない場合には、`000000` の値 (深夜 0 時) がストアされます。ストアされる値が表すのは、Web サーバーのローカル時刻です。



Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

次の図は、スタンダード テンプレートの **[有効期間]** セクションにある **[有効期間の開始]** という Datetime フィールドを示しており、時刻のドロップダウン リストがあります。



File フィールド タイプ

File フィールド タイプを使用すると、ユーザーはメディア ライブラリでアイテムを選択することができます。ユーザーは [Open file] をクリックして **[メディア ブラウザー]** を開き、メディア ライブラリから必要なファイルを選択できます。

File フィールドのソース プロパティを使用すると、ユーザーが [メディア ブラウザー] を開いたときに選択されるメディア フォルダーを制御したり、この選択インターフェースのルート アイテムを指定したりすることができます。

File フィールドのソース プロパティにアイテムを指定すると、[メディア ブラウザー] はそのアイテムより上にナビゲートできなくなります。ユーザーは指定されたメディア フォルダーより上にナビゲートできません。File フィールドのデフォルトのソースは、メディア ライブラリのルート アイテムです (/Sitecore/メディア ライブラリ)。

File フィールドのソース プロパティがチルド文字 (/sitecore/メディア ライブラリ/ファイル) で始まる場合、[メディア ブラウザー] には指定したメディア フォルダーが選択された状態でメディア ライブラリのコンテンツ ツリー全体が表示されるため、ユーザーはメディア フォルダーより上にナビゲートすることができます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

次の図は、パスにデータが入ったファイル フィールドを示しています。右側には、[メディア ブラウザー] が開いてアイテムが強調表示されています。

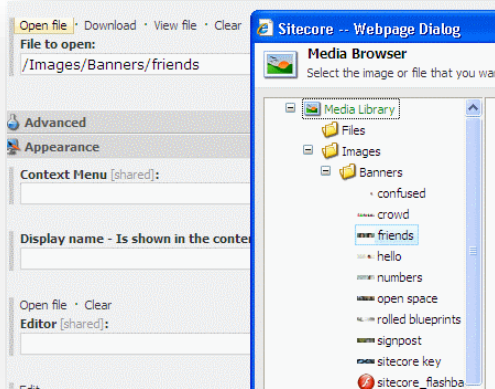
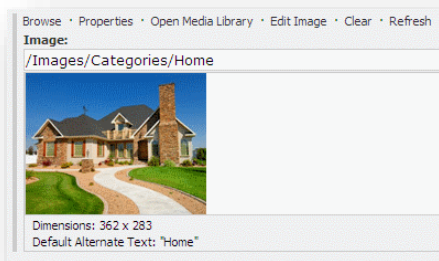


Image フィールド タイプ

Image フィールド タイプを使用すると、ユーザーはメディア ライブラリから画像を選択し、画像のプロパティを指定することができます。ユーザーは [Open file] をクリックして [メディア ブラウザー] を開き、メディア ライブラリから必要なファイルを選択できます。

Image フィールドのソース プロパティは、[メディア ブラウザー] で選択したアイテムを制御します。ソース プロパティに関する詳細な情報は「File フィールド タイプ」のセクションを参照してください。

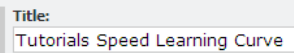
次の図は、Stater Kit の [Home-Products] アイテムの **Image** フィールドを示しています。



Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

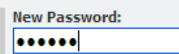
Integer、Number、Password、Single-Line Text フィールド タイプ

これらのフィールド タイプは、単一行のテキストをストアします。



Title:
Tutorials Speed Learning Curve

Password フィールド タイプはプレーン テキストをストアしますが、コンテンツ エディターでは入力をマスクします。指定されたテキストは、データベースに格納される時にハッシュおよびマスクされません。

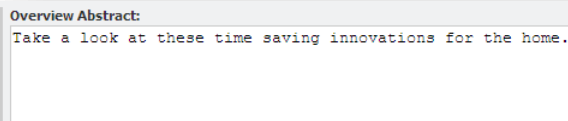


New Password:
●●●●●●

Multi-Line Text フィールド タイプ

Multi-line フィールド タイプは、1 つのテキスト値が複数の行にまたがるときに使用します。このフィールドには検証機能がないため、このタイプのフィールドではリッチ テキストはサポートされません。

次の図は、スターター キットの [Home-Products] アイテムの [Overview Abstract] という複数行テキスト フィールドを示しています。



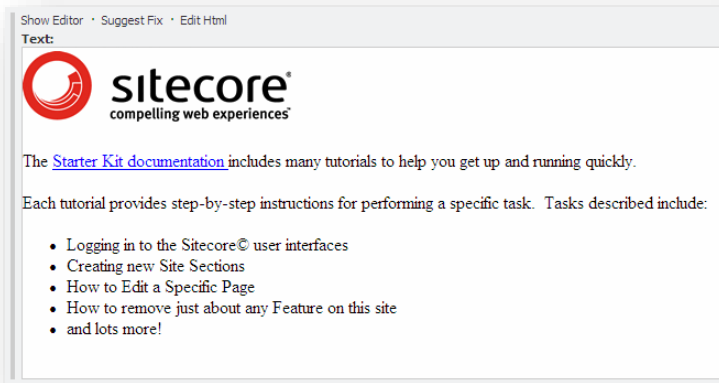
Overview Abstract:
Take a look at these time saving innovations for the home.

Rich Text フィールド タイプ

このフィールド タイプは、HTML テキストをストアします。このフィールドでは、ソース HTML をブラウザで表示したときのようにコンテンツが表示されますが、フィールドに実際にストアされるのは文字エンコードされた HTML です。[エディターを表示] ボタンを押すとリッチ テキスト エディターにアクセスでき、[HTML の編集] ボタンを押すとストアされている HTML にアクセスできます。Rich Text フィールドの詳細については、『コンテンツ リファレンス マニュアル』を参照してください。

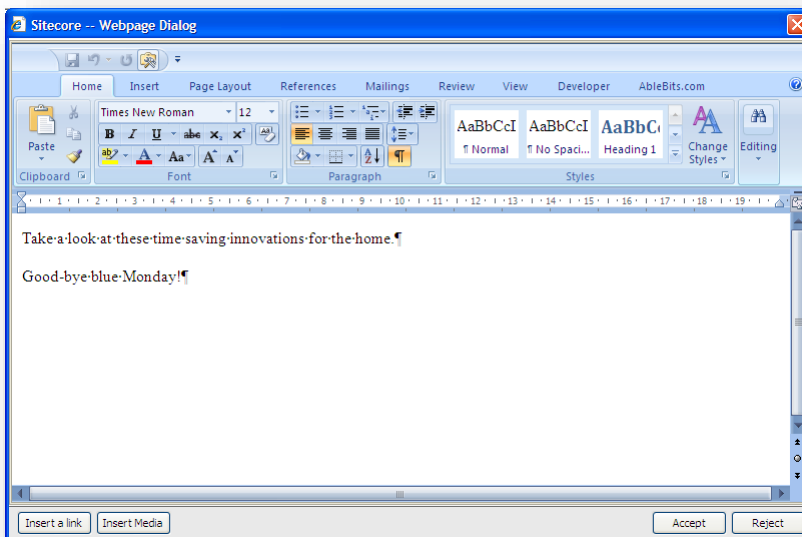
Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

次の図は、内部リンクとイメージを含むリッチ テキスト フィールドを示しています：



Word Document フィールド タイプ

Word Document フィールド タイプを使用すると、ユーザーがブラウザーに埋め込まれた Microsoft Word を使用して HTML を編集することができます。



メモ

Word Document フィールド タイプには、Microsoft Internet Explorer 6 以降が必要です。Internet Explorer の設定方法については、『[Internet Explorer 設定ガイド](#)』を参照してください。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

`web.config` で `/configuration/sitecore/settings/setting` エLEMENTの `value` 属性に `name WordField.InlineEditing.Width` を設定すると、エディターの幅を制御することができます。`web.config` で `/configuration/sitecore/settings/setting` エLEMENTの `value` 属性に `name WordField.InlineEditing.Height` を設定すると、エディターの高さを制御することができます。`web.config` で `/configuration/sitecore/settings/setting` エLEMENTの `value` 属性に `ame WordField.InlineEditing.Padding` を設定すると、エディターのパディングを制御することができます。

4.2.3 List フィールド タイプ

各 List フィールド タイプを使用すると、異なる機能を持つ異なるユーザー インターフェースを使用してユーザーがゼロ以上のアイテムを選択することができます。このフィールドのソース プロパティには、リストでのオプションを指定します。

メモ

ソース プロパティでアイテムを指定すると、Checklist、Droplist および Multilist のフィールドには指定したアイテムの子が表示され、Droptree、Internal Link、Treelist、Treelist の各フィールド タイプでは指定したアイテムがツリーのルートになります。

ヒント

Checklist、Droplist、Droptree および Multilist の各フィールド タイプのソース プロパティでは、Sitecore クエリがサポートされています。Sitecore クエリの詳細については、「Sitecore クエリ」のセクションを参照してください。

ヒント

Checklist、Droptree、Multilist、Treelist および TreelistEx の各フィールド タイプは、ユーザーが選択したアイテムの GUID をパイプ文字 (|) で区切ってストアします。フィールドに単一アイテムへの参照をストアした場合は、`Sitecore.Data.Fields`、

`ReferenceField` クラスまたは `sc:item()` XSL 拡張メソッドを使用してアクセスすることができます。フィールドに複数の参照をストアした場合は、`Sitecore.Data.Fields.MultilistField` クラスまたは `sc:Split()` XSL 拡張メソッドを使用して、選択したアイテムにアクセスすることができます。

Multilist with Search タイプ

Multilist with Search フィールドには制限がなく、数千のアイテムを表示できます。このフィールド タイプは、アイテム バケットのアイテムに限らず、非常に膨大なアイテムのリストを参照する場合に使用することを推奨します。

このフィールドを使用して検索クエリを Multilist フィールドに貼り付け、検索結果を選択可能なアイテムとして表示します。たとえば、すべてのプロダクト アイテムの Multilist が必要な場合、フィールドのソース フィールドを `TemplateFilter="Product ID"` に設定し、リストのアイテムを返すことができます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

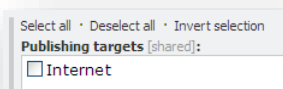
Treelist with Search タイプ

Treelist with Search フィールドを使用すると、マルチリスト フィールドとほとんど同じ方法でアイテムを参照することができます。しかし、GUID を入力して検索の開始場所を決定することもできます。これによってテンプレートに設定されていたデフォルトのフィルターは無視されます。検索ボックスを使ってこのフィールドのアイテムを検索でき、検索は適用されたフィルターに提供されます。

Checklist フィールド タイプ

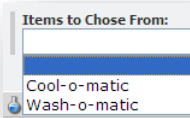
Checklist フィールド タイプを使用すると、フィールドのソース プロパティで指定されたアイテムの子を表す 1 つまたは複数のチェックボックスをユーザーが選択することができます。ユーザーが選択内容を並べ替えることはできません。

次の図は、スタンダード テンプレートの [パブリッシュ] セクションの [パブリッシュ ターゲット] チェックリスト フィールドを示しています:



Droplist フィールド タイプ

Droplist フィールド タイプを使用すると、フィールドのソース プロパティで指定されたリストから、ユーザーがアイテムを 1 つ選択することができます。



重要

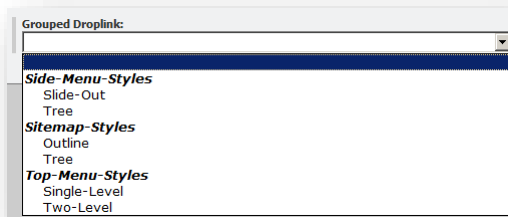
Droplist フィールド タイプには、選択したアイテムの名前がストアされます。Droplink フィールド タイプは、その ID をストアします。Droplink フィールド タイプの詳細については、「このフィールドを使用して、コンテンツ ツリーに保存されたアイテムを検索し、そのアイテムへのリンクを作成します。」

」を参照してください。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

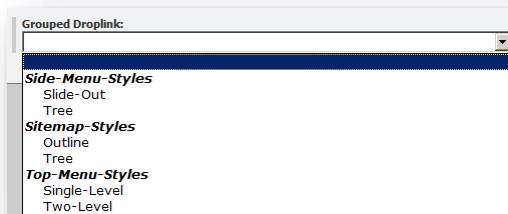
Grouped Droplink フィールド タイプ

Grouped Droplink フィールド タイプを使用すると、フィールドのソース プロパティで指定されたアイテムの孫をユーザーが 1 つ選択することができます。Grouped Droplink フィールド タイプには、選択したアイテムの GUID がストアされます。



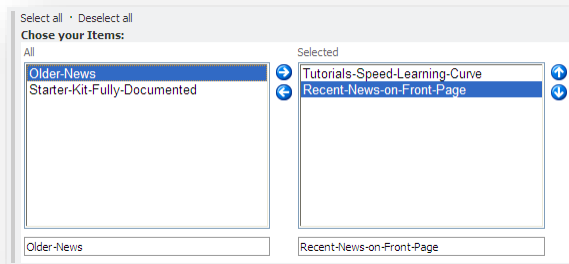
Grouped Droplist フィールド タイプ

Grouped Droplist フィールド タイプを使用すると、フィールドのソース プロパティで指定されたアイテムの孫をユーザーが 1 つ選択することができます。Grouped Droplist フィールド タイプには、選択したアイテムの名前がストアされます。



Multilist フィールド タイプ

Multilist フィールド タイプを使用すると、フィールドのソース プロパティで指定されたリストから、ユーザーがゼロ以上のアイテムを選択することができます。ユーザーは選択したアイテムを並べ替えることもできます。



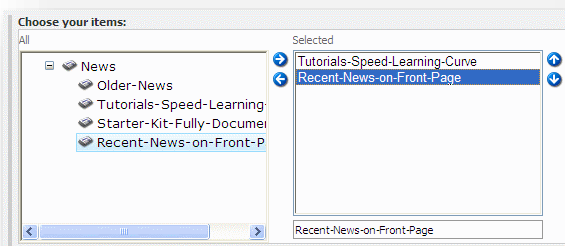
Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

Name Value List フィールド タイプ

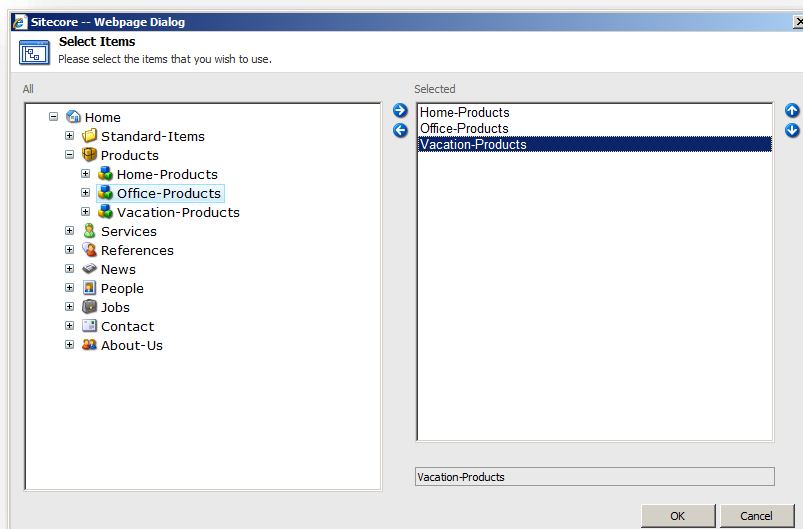
Name Value List フィールド タイプを使用すると、ユーザーがゼロ以上の任意のキーの値を入力することができます。入力された値は、アンパサンド (&) で区切って key=value のペアのリストとしてストアされます。Sitecore は、Name Value List フィールド タイプをレンダリングのパラメーターとして使用します。レンダリング パラメーターの詳細については、『[プレゼンテーション コンポーネントリファレンス マニュアル](#)』を参照してください。

Treelist および TreelistEx フィールド タイプ

Treelist フィールド タイプを使用すると、フィールドのソース プロパティで指定されたアイテムのゼロ以上の子孫をユーザーが選択することができます。ユーザーは選択したアイテムを並べ替えることもできます。



TreelistEx フィールドは Treelist フィールドと同じ機能を持ちますが、ユーザーがリストの編集を選択して新しいブラウザ ウィンドウが開くまで選択したアイテムが表示される点のみ異なります。コンテンツ エディターには、Treelist フィールドより TreelistEx フィールドの方が迅速にロードされます。



Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

ヒント

ユーザーが頻繁に編集するフィールドには Treelist フィールド タイプを使用し、編集頻度が低いフィールドには TeelistEx フィールド タイプを使用してください。

4.2.4 Link フィールド タイプ

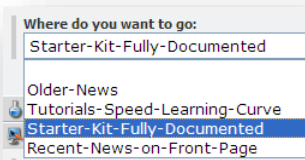
Link フィールド タイプを使用すると、アイテム、外部 URL、アンカー、Email アドレス、および JavaScript 関数へのリンクをユーザーが入力することができます。

General Link with Search タイプ

このフィールドを使用して、コンテンツ ツリーに保存されたアイテムを検索し、そのアイテムへのリンクを作成します。

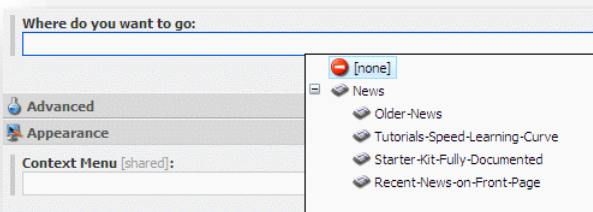
Droplink フィールド タイプ

Droplink フィールド タイプを使用すると、フィールドのソース プロパティで指定されたリストから、ドロップダウン リストを使用してユーザーがアイテムを 1 つ選択することができます。



Droptree フィールド タイプ

Droptree フィールド タイプを使用すると、フィールドのソース プロパティで指定されたアイテムの子孫をユーザーが 1 つ選択することができます。

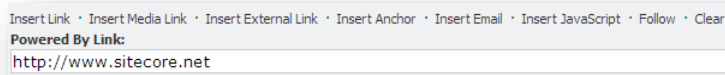


Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

General Link フィールド タイプ

General Link フィールド タイプを使用すると、アイテム、URL、アンカー、Email アドレス、または JavaScript 関数にリンクさせることができます。

次の図は、URL への外部リンクが入った General Link フィールドを示しています：



Version Link フィールド タイプ

このフィールド タイプは、Sitecore 内部での使用に限られます。

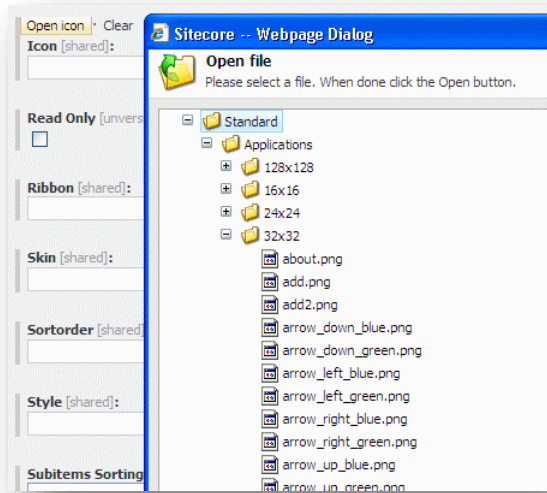
4.2.5 Developer フィールド タイプ

Developer フィールド タイプは主として、コンテンツ エディターでのアイテムの外観を制御します。標準的な Web サイトの開発者は、エンドユーザーのデータ用に Developer フィールド タイプを使用しません。

Icon フィールド タイプ

Icon フィールド タイプは、テーマ別のアイコンを各アイテムに関連付けます。

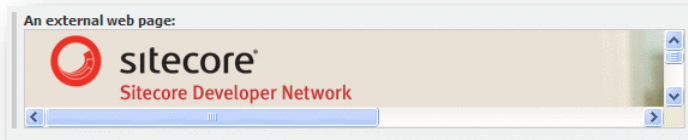
次の図は、[Open file] ダイアログが開いた状態の [アイコン] フィールドを示しています。



Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

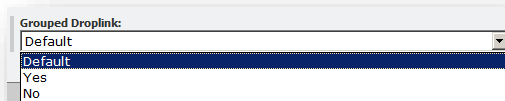
IFrame フィールド タイプ

IFrame フィールド タイプには、フィールド内の Web ページが表示されます。このフィールドのソース プロパティに表示する URL を指定します。次の図は、外部 Web ページのサンプルを示しています。



Tristate フィールド タイプ

Tristate フィールド タイプを使用すると、ユーザーが [デフォルト]、[はい]、[いいえ] の 3 つからいずれかのオプションを選択することができます。ユーザーが [デフォルト] を選択した場合、フィールドの値は空の文字列になります。[はい] を選択した場合、このフィールドの値は数値 1 になります。[いいえ] を選択した場合、このフィールドの値は数値 0 になります。



4.2.6 System フィールド タイプ

System フィールド タイプには、特定の要件に対応する高度な機能があります。一般的に Web サイトの開発者は、エンドユーザーのデータ用に System フィールド タイプは使用しません。

Query Datasource タイプ

Sitecore プレゼンテーション レイヤーを使用してプレゼンテーション コンポーネントの datasource を設定することができます。Datasource を設定することによって、特定のコンテンツへの内部リンクを作成することができます。コンテンツ ツリーからまたは検索クエリを指定して、datasource として使用するコンテンツを選択することができます。その後検索クエリはソリューションのコードに入れられます。たとえば、特定のテンプレートに基づくアイテムを検索し、その結果をプレゼンテーション コンポーネントの datasource として機能させることができます。

Attachment フィールド タイプ

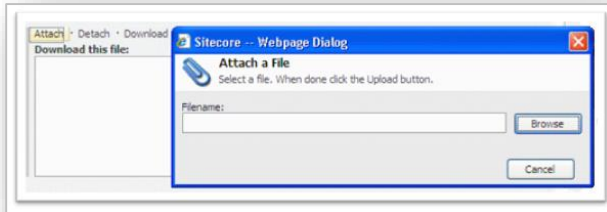
データベース メディア アイテムは、Attachment フィールド タイプを使用してバイナリー データをストアします。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

注意

データ テンプレートでは Attachment フィールド タイプを使用しないでください。

次の図は、[ファイルを添付] ダイアログが開いた状態の Attachment タイプのフィールドを示しています。



Custom フィールド タイプ

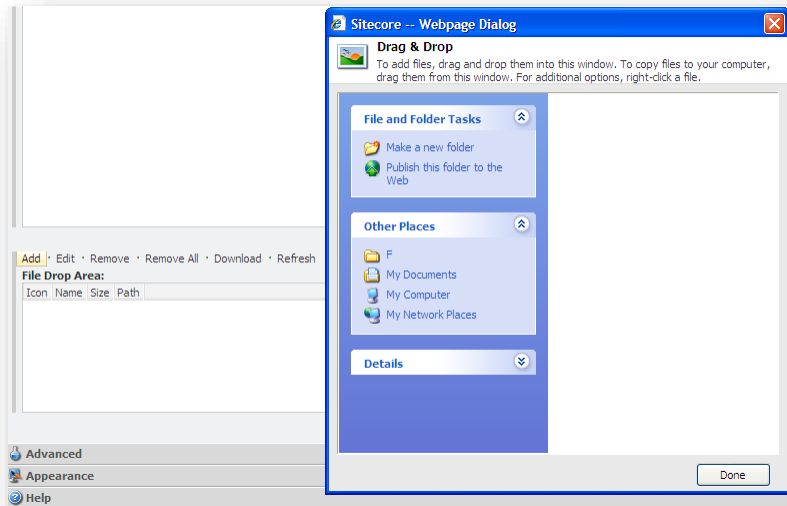
関連性のないエントリーをフィールド タイプのリストに含まないように、Sitecore には使用頻度の低いカスタム フィールドのための Custom フィールド タイプが用意されています。たとえば、レイアウト詳細で使用される CachingField、ExperienceTunerField および TestLaboratoryField Custom の各フィールド タイプには Custom フィールドタイプが使用されます。

File Drop Area (FDA) フィールド タイプ

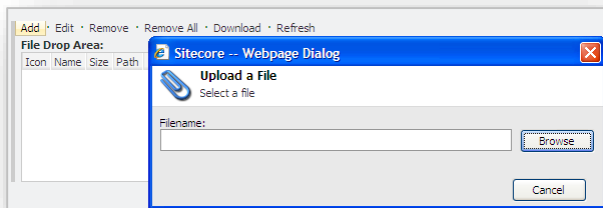
File Drop Area (FDA) フィールド タイプを使用すると、ユーザーが WebDAV プロトコルを使用してファイルを管理することができます。これについての追加情報は、『*WebDAV Configuration*』リファレンスを参照してください。[File Drop Area] フィールドの値は、対応するメディア アイテムを含むメディア ライブラリ フォルダーを参照します。ソース プロパティは、[File Drop Area] フィールドに対して何の効果も持ちません。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

[File Drop Area] フィールドを有効にした場合、[追加] をクリックすると [ドラッグ & ドロップ] ダイアログ ボックスが表示されます:



[File Drop Area] フィールドを無効にした場合、[追加] をクリックしたとき [アップロード] ダイアログ ボックスが表示されます:



アイテムを公開するとき、Sitecore はメディアの変更や削除も含めて、そのアイテムの [File Drop Area] フィールドで参照されているメディア アイテムを自動的に公開します。

Internal Link フィールド タイプ

Internal Link フィールド タイプを使用すると、フィールドのソース プロパティで指定されたアイテムの子孫をユーザーが 1 つ選択することができます。

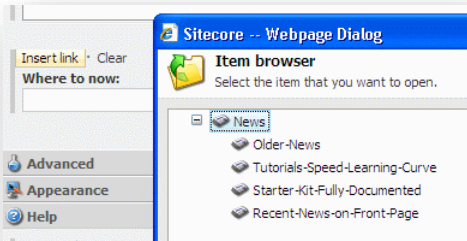
注意

データ テンプレートでは Internal Link フィールド タイプを使用しないでください。Internal Link フィールド タイプは Sitecore 内部での使用とカスタマイズにのみ適切な Sitecore System フィールド タイプです。これは Path とアイテ

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

ム名を示すため、エンドユーザー データでの使用には適していません。このリンクは、エンドユーザーがアイテムの名前を変更すると簡単に壊れます。代わりに Droplink、Droptree または General Link を使用してください。

次の図は、[内部リンク] フィールドの上にある [挿入] から呼び出したアイテム選択ダイアログを示しています。



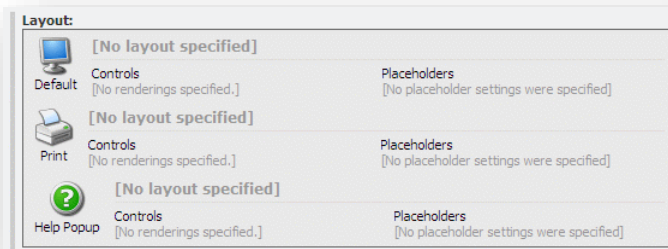
Layout フィールド タイプ

Layout フィールド タイプを使用すると、ユーザーが各アイテムのレイアウト詳細を操作することができます。

注意

データ テンプレートでは Layout フィールド タイプを使用しないでください。

次の図は、[レイアウト] フィールドを示しています。



Rules フィールド タイプ

Rules フィールド タイプを使用すると、条件付きのレンダリングを設定することができます。

注意

データ テンプレートでは Rules フィールド タイプを使用しないでください。

Security フィールド タイプ

Security フィールド タイプを使用すると、各アイテムのセキュリティ設定を操作することができます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

注意

データ テンプレートでは Security フィールド タイプを使用しないでください。

Template Field Source フィールド タイプ

Template Field Source フィールド タイプを使用すると、ユーザーがテンプレート フィールド定義アイテムのソース プロパティを選択することができます。

注意

データ テンプレートでは Template Field Source フィールド タイプを使用しないでください。

Thumbnail フィールド タイプ

Thumbnail フィールド タイプを使用すると、ユーザーはメディア ライブラリからサムネイル画像を選択することができます。

注意

Thumbnail Field フィールド タイプをデータ テンプレートで使用しないでください。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

4.3 Sitecore クエリ

Sitecore クエリでは、XPath 構文の簡易版を使用して Sitecore のコンテンツ ツリーからアイテムをフィルターおよび取得するクエリ文字列構文を使用することができます。デベロッパーは、.NET コードおよびフィールド定義アイテムのソースフィールドで Sitecore クエリ文字列を使用します (ソース フィールドの先頭に "query:" 接頭辞が必要です)。

メモ

Sitecore クエリは、アイテムバケットを使用して膨大な数のアイテムをコンテンツ ツリーに保存している場合、スケーラブルではありません。

4.3.1 一般的な構文

Sitecore クエリ構文では、コンテキスト アイテムという概念を利用し、次の記号を使用して関連アイテムを参照します:

記号	意味
/	コンテンツ ツリーまたは親子関係のルート
Text	アイテム名に一致
#	ダッシュ (-) を含むエスケープ テキスト。次はその例です: #meta-data# It can also be used to escape special words, for example: #and#, #or#.
*	任意のアイテム名に一致するワイルドカード
..	コンテキスト アイテムの親
[]	フィールドと XML エレメントの属性に関連する検索基準
@	アイテムのベース テンプレートで定義されているフィールド

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

記号	意味
@@	XML エLEMENTの属性。すべての Sitecore アイテムは "item" ELEMENTとして扱われ、次の属性が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • name アイテムの名前 • key すべて小文字にしたアイテムの名前 • id アイテムの GUID • tid アイテムのベース テンプレートの GUID • mid アイテムの作成に使用するブランチ テンプレート (存在する場合) • sortorder アイテムの並び順 • template アイテムのベース テンプレートの名前 • parentid アイテムの親の GUID

これらの記号を組み合わせると、特定のアイテムまたはアイテム グループを参照することができます。次はその例です：

Sitecore クエリ文字列	結果セット
/*	コンテキスト ツリーのルート
/sitecore/content/home	Sitecore ホーム アイテム
/sitecore/content/home/*[startswith(@title, 'P')]	ホーム アイテムの下にあり、"P"で始まる Title フィールドを含む 直属のサブアイテム

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

Sitecore クエリ文字列	結果セット
*[@__hidden='1']	コンテキスト アイテムの下にあるすべての非表示サブアイテム
query: /*/content/#meta-data#/colors/*[@show='1']	[表示] チェックボックス フィールドがオンにされた状態で Color アイテムの下にあるすべてのサブアイテムを選択するソース フィールド
./*[@@tid="{A87A00B1-E6DB-45AB-8B54-636FEC3B5523}"]	フォルダー テンプレートに基づいたコンテキスト アイテムの下にあるサブアイテム

4.3.2 軸

クエリの軸コンポーネントは、コンテキスト ノードに関してノード選択の方向を決定します。軸は、方向のあるクエリと考えることができます。

メモ

クエリの軸コンポーネントは、アイテム バケットと膨大な数のコンテンツ アイテムを使用中の場合、スケーラブルではありません。

次の表に、一般的な軸の一部を示します：

軸	説明
ancestor	コンテキスト アイテムのすべての先祖を返す (XPath と同じ)。
ancestor-or-self	コンテキスト アイテムと、コンテキスト アイテムのすべての先祖を返す (XPath と同じ)。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

軸	説明
child	(/*) は、コンテキスト アイテムのすべての子を返す (XPath と同じ)。
descendant	(//*) は、コンテキスト アイテムのすべての子孫、子の子孫、または子の子などを返す (XPath と同じ)。
descendant-or-self	コンテキスト アイテムと、コンテキスト アイテムのすべての子孫を返す (XPath と同じ)。
following	コンテキスト ノードに続くすべての兄弟を返す (XPath の following-sibling と同じ)。
parent	(..) は、コンテキスト アイテムの親アイテムを返す (XPath と同じ)。
preceding	コンテキスト アイテムに先行するすべての兄弟を返す (XPath の preceding-sibling と同じ)。
self	(.) は、コンテキスト アイテムを返す (XPath と同じ)。
[int]	指定したインデックスを持つ子アイテムを返す。

4.3.3 Operators

次の表のオペレーションを Sitecore のクエリ式で使用することができます。

演算子	説明	例	戻り値
	結合	//Products //Shapes	Products または Shapes という名前のすべてのアイテム
+	加算	6 + 4	10.
-	減算	6 - 4	2.
*	乗算	6 * 4	24.
div	除算	8 div 4	2.
=	等しい	position() = 3	position() が 3 の場合は True、それ以外の場合は False

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

演算子	説明	例	戻り値
!=	等しくない	<code>position() != 3</code>	<code>position()</code> が 3 の場合は False、それ以外の場合は True
<	より小さい	<code>position() < 4</code>	<code>position()</code> が 4 より小さい場合は True、それ以外の場合は False
<=	以下	<code>position() <= 4</code>	<code>position()</code> が 4 以下の場合は True、それ以外の場合は False
>	より大きい	<code>position() > 4</code>	<code>position()</code> が 4 より大きい場合は True、それ以外の場合は False
>=	以上	<code>position() >= 4</code>	<code>position()</code> が 4 以上の場合は True、それ以外の場合は False
or	論理 OR	<code>position() = 3 or position() = 4</code>	<code>position()</code> が 3 または 4 の場合は True、それ以外の場合は False
and	論理 AND	<code>position() > 3 and position() < 7</code>	<code>position()</code> が 3 より大きく、かつ 7 より小さい場合は True、それ以外の場合は False
mod	剰余 (除算の余り)	<code>5 mod 2</code>	1.

4.3.4 内部アーキテクチャ

Sitecore では、可能な限り高速なテクノロジーを使用してクエリが処理されます。要求されたクエリがデータ プロバイダーでサポートされている場合には SQL データベース、サポートされていない場合には Sitecore データ マネージャーです。SQL データベースでは最高のパフォーマンスを得られますが、その代わりに、一部のクエリがサポートされなくなります。

SQL データベースでは、アイテムをパスで解決する `"/sitecore/content/home"` などのクエリや、一連のアイテムを名前前で検索する `"/home"` がサポートされています。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

これは、実際にはどのように動作するのでしょうか。SQL データベースを使用する大規模なサイトがあり、*needle* という名前のコンテンツ アイテムをすべて検索する場合を考えてみます。次の API コードで、この結果セットが取得されます：

```
Item content = Sitecore.Context.Database.GetItem("/sitecore/content");
Item[] needles = content.Axes.SelectItems("//needle");
```

SQL Server のデータ プロバイダーはこの種のクエリをサポートしているため、このクエリは直接データベースで解決され、データベースに多くのコンテンツ アイテム数が含まれている場合でも、かなり高速で実行されます。

ただし、検索基準を追加すると、Sitecore での検索方法が変わることがあります。前の例で、アイテムに **IsHidden** という名前のチェックボックス フィールドが含まれていると仮定します。非表示ではない needles を検索するクエリは、次のようになります：

```
Sitecore.Data.Items.Item content =
    Sitecore.Context.Database.Items["/sitecore/content"];
Sitecore.Data.Items.Item[] needles =
    content.Axes.SelectItems("//needle[@IsHidden != '1']");
```

SQL Server のデータ プロバイダーでは、述語（角かっこで囲まれた検索文字列の一部、[@IsHidden != '1']）がサポートされていません。このため、Sitecore ではクエリ API を使用してデータ マネージャーでこのクエリが解決されます。解決するには、述語をアイテムごとに評価し、一致するアイテムを返せるように、クエリのスコープにある全アイテム（この例では /sitecore/content のすべての子孫）がロードされます。残念ながら、このように多くのアイテムをロードするときにはパフォーマンスが犠牲になり、アイテムのセットが大きい場合には大幅に速度が低下します。

以上のことを踏まえると、最初に *needle* という名前のアイテムをすべて検索し、次にメモリーにある結果セットを検索して非表示ではないアイテムを探すという方法が最適であることがわかります。

第 5 章

フィールドとアイテムの検証

この章では、フィールドとアイテムに対して検証を行い、入力データの正当性を制御するさまざまな方法について詳細に説明します。検証の詳細については、『[クライアント構成クックブック](#)』を参照してください。

この章には次のセクションがあります：

- 検証のルールとオプションについて
- デフォルトの検証ルール
- 検証オプション

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

5.1 検証のルールとオプションについて

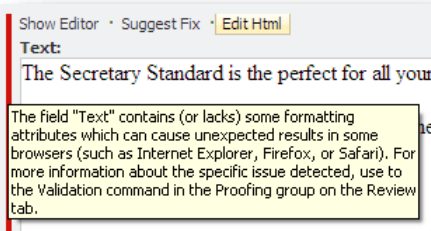
フィールド値は検証のルールとオプションによって検証され、このときのフィールド検証ルールは、`web.config` ファイルで指定されている設定に基づいてオンザフライ方式で解決されます。検証設定を保持するセクションには、直接的な式の設定、パイプライン、およびイベント ハンドラー、そしてコンテンツ エディターで **[検証]** バーをオフにする機能など単純な設定が含まれています。

これらの検証ルールは、1 つの言語バージョンのアイテムで 1 つのフィールド値を検証します。各アイテムの検証は、任意の数のアイテム検証ルールを使用して行うことができ、その場合はアイテム名などのグローバル値と、複数のフィールド値を伴う条件も検証されます。

アイテムとフィールドを検証するときに検証ルールで使用される基本的なテクノロジーは同じですが、アイテム検証およびフィールド検証のルールでは、主として次のような相違があります：

- フィールド検証ルールは、1 つの言語バージョンで 1 つまたは複数のフィールドの値を検証します。それに対し、アイテム検証ルールはすべてのバージョンに共有されたアイテム データを検証します。アイテム名や、複数のフィールド値を伴う条件などです。
- ユーザー インターフェースには、`/sitecore/system/Settings/Validation Rules/Field Rules` からのフィールド検証ルールと、`/sitecore/system/Settings/Validation Rules/Item Rules` からのアイテム検証ルールが表示されます。
- テンプレートにおいて、フィールド検証ルールはテンプレート フィールド定義によって定義されますが、アイテム検証ルールはテンプレートスタンダード バリューと個々のアイテムによって定義されます。

フィールド検証の問題はすべて、コンテンツ エディターでフィールド値の左に色付きのバーとして表示されます。表示される色は、エラーがなければグレー、警告の場合には黄色、エラーの場合には赤です。次の図では、フィールド検証の警告 (赤いバー) が表示され、ツールチップの説明としてエラーに関する詳細が表示されています。



Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

5.2 デフォルトの検証ルール

次の表は、あらかじめ用意されているアイテム検証およびフィールド検証のルールと、そのルールで実行される検証の簡単な説明についての例です。以降のバージョンではプレインストールされたルールが含まれている場合があります。

5.2.1 アイテム検証ルール

アイテム検証ルール	検証する内容
Broken Links	全言語と全バージョンで、1 つまたは複数のフィールドにおける破損リンクをチェックする。
Duplicate Name	アイテム名が兄弟間でユニークであることをチェックする。
Full Page XHTML	サイト訪問者がアイテムを要求したときに生成される XHTML を検証する。
Media Size Too Big	メディア ライブラリのアイテムが指定サイズを超えているかどうかをチェックする。
Url Characters	アイテム名に、URL をレンダリングする際にエスケープの必要な文字が含まれているかどうかをチェックする。このような文字は検索エンジンのインデックス作成に悪影響を及ぼすことがあるため。

5.2.2 フィールド検証ルール

フィールド検証ルール	検証する内容
Broken Links	フィールドに破損リンクが含まれているかどうかをチェックする。
Is Email	フィールドに Email アドレスが含まれているかどうかをチェックする。
Is Integer	フィールドに整数が含まれているかどうかをチェックする。
Is XHTML	フィールドに XHTML が含まれているかどうかをチェックする。
Max Length 40	フィールドに含まれる値が 40 文字以下かどうかをチェックする。
Rating 1 to 9	フィールドに含まれる値が 1 から 9 の間にあるかどうかをチェックする。
Required	フィールドに値が含まれているかどうかをチェックする。
Spellcheck	RAD エディターのスペル チェック機能を使用してスペリングをチェックする。リッチ テキスト エディターでも使用される。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

Type and Assembly	アクセス可能なアセンブリーにおけるクラスを値が適切に参照しているかどうかをチェックする。
W3C XHTML Validation	W3C の検証サービスを使用してフィールドの HTML を検証する (CMS がインターネット アクセスできることが必要)。

5.2.3 システム フィールド検証ルール

システム フィールド検証 ルール	検証する内容
Alt Required	alt テキストが指定されていることをチェックする。
Extension May Not Start with a Dot	メディア ファイルの拡張子がドットで始まっていることをチェックする。
Extern Link Target	外部リンク (他サイトへのリンク) をチェックする。
Image Has Alt Text	イメージに alt テキストがあるかどうかをチェックする。
Image Has Alt Text from Media Library	メディア アイテムにデフォルトの alt テキストがあるかどうかをチェックする。 デフォルトの alt テキスト (メディア ライブラリから) が使用される。
Image Size	イメージ フィールドを通じて参照されるイメージのサイズをチェックする。
Rich Text Image Size	リッチ テキスト フィールドに含まれるイメージのサイズについて、サイトのデ ザイン上イメージが大きすぎないかどうかをチェックする。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

5.3 検証オプション

検証オプションは、データ テンプレートスタンダード バリユーの **[検証ルール]** セクションとテンプレート フィールド定義で選択することができます。Sitecore には、一連の検証オプションがあらかじめ用意されています。次の表は、検証オプションと、実行される検証の簡単な説明です。

検証オプション	制御される内容
[クイック アクション] バー	コンテンツ エディターの左側にある [クイック アクション] バーに検証の問題が表示される。
[検証] ボタン	[レビュー] タブの [校正] グループから [検証] を選択したときと、ワークフロー検証アクションを含むワークフロー状態への変換をユーザーが呼び出したときに、検証の問題が表示される。
[検証] バー	コンテンツ エディターの右側にある [検証] バーに検証の問題が表示される。
[ワークフローの検証ルール]	ワークフロー検証アクションに関連付けられたワークフロー コマンドをユーザーが選択したとき、ユーザー インターフェイス検証の問題が表示される。すべての検証エラーを解決しない限り、ユーザーはワークフロー アクションを完了できない。
[除外する検証ルール]	個々のコンテンツ アイテムに対するグローバルな検証ルールを無効にすると、 [クイック アクション] バーに検証の問題が表示されなくなります。

第 6 章

挿入オプション

この章では挿入オプションについて説明します。挿入オプションは、ユーザーが既存のアイテムの下に挿入できるアイテムの種類を制御します。挿入オプションには、データ テンプレート、ブランチ テンプレート、およびコマンド テンプレートを含めることができます。

この章には次のセクションがあります：

- 挿入オプション
- ブランチ テンプレート
- コマンド テンプレート

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

6.1 挿入オプション

Sitecore の管理者とデベロッパーは、挿入オプションを設定して、ユーザーが既存のアイテムの下に挿入できるアイテムの種類を制御します。挿入オプションには、次を含めることができます：

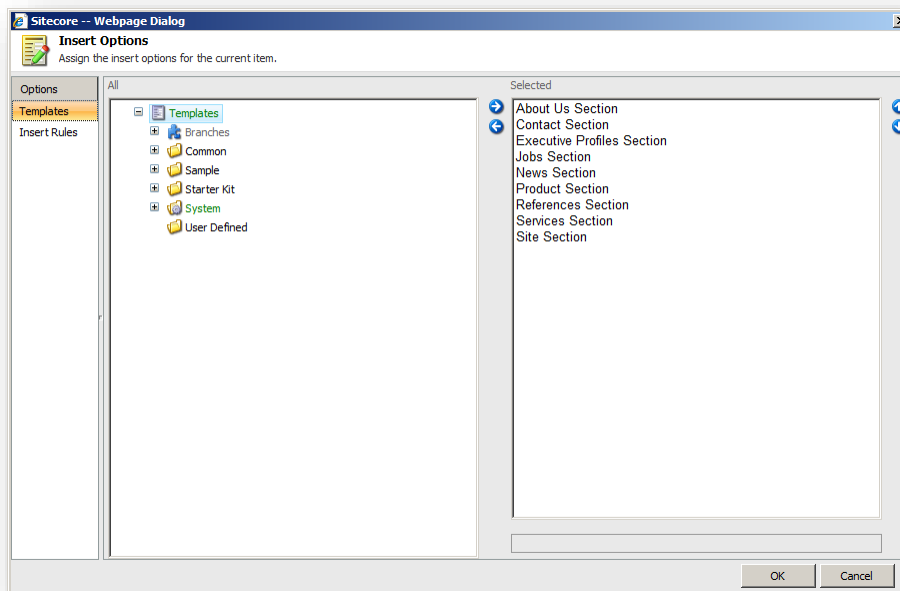
- データ テンプレート。
- ブランチ テンプレート。
- コマンド テンプレート。

6.1.1 効率的な挿入オプション

- Sitecore は、次のセクションで説明するリソースを使用して、アイテムごと、ユーザーごとに効率的な挿入オプション (ユーザーが新しいアイテムを挿入するために使用可能なデータ テンプレート、ブランチ テンプレートおよびコマンド テンプレート) を決定します。

6.1.2 割り当てられた挿入オプション

データ テンプレートのスタンダード バリューで、挿入オプションを割り当てることができます。割り当てる挿入オプションには、データ テンプレート、ブランチ テンプレート、コマンド テンプレート、および挿入ルールを含めることができます。



重要

可能な限り、挿入オプションは個々のアイテムに割り当てのではなく、スタンダード バリューで割り当てるようにしてください。

6.1.3 挿入ルール

管理者が挿入オプションで挿入ルールを割り当てると、効率的な挿入オプションを実行時のユーザーに動的に再定義することができます。デベロッパーは、管理者が選択できるように、カスタムの挿入ルールを実装することができます。

6.1.4 挿入オプション ルール

管理者は、挿入オプション ルールを実装して効率的な挿入オプションを定義し、ルール パラメーターを選択するユーザーインターフェースを提供することができます。特定のアイテムに割り当てられる挿入ルールとは異なり、挿入オプション ルールはすべてのアイテムに適用されます。ただし、条件によって適用を制限するのが一般的です。挿入ルールの詳細については、「挿入ルール」のセクションを参照してください。効率的な挿入オプションに追加のメカニズムを提供するルール エンジンの詳細については、『[ルール エンジン クックブック](#)』を参照してください。

6.1.5 uiGetMasters パイプライン

Sitecore では、`web.config` で定義されている `uiGetMasters` パイプラインを呼び出すことによって効率的な挿入オプションのリストを構築します。`uiGetMasters` パイプラインには、ユーザーが新しいアイテムを挿入するときに使用可能なデータ テンプレート、コマンド テンプレートおよびブランチ テンプレートのリストが定義されています。

`uiGetMasters` パイプラインは、次のプロセスでアイテムの効率的な挿入オプションを定義します：

1. アイテムに割り当てられていて、コンテキスト ユーザーが読み取りアクセス権を持つ個々の挿入オプションを、効率的な挿入オプションのリストに追加します。
2. アイテムに関連付けられている挿入ルールを、効率的な挿入オプションのリストに追加します。挿入ルールの詳細については、「挿入ルール」のセクションを参照してください。
3. 挿入オプション ルールを、効率的な挿入オプションのリストに適用します。挿入オプション ルールの詳細については、「挿入オプション ルール」のセクションを参照してください。
4. コンテキスト ユーザーが挿入 `:show` アクセス権を持っていないアイテムがあれば削除します。

実行時のユーザーにとって効率的な挿入オプションを決定するロジックを含む `uiGetMasters` パイプラインに、デベロッパーはカスタム プロセッサを追加することができます。これらのルールを参照するアイテムのみに適用される挿入ルールとは異なり、`uiGetMasters` パイプラインはすべてのアイテムに適用されます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

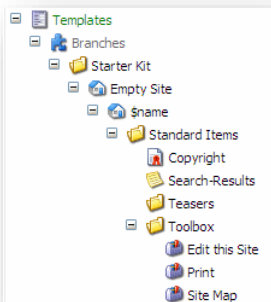
6.2 ブランチ テンプレート

ブランチ テンプレートを使用すると、Sitecore 管理者により事前定義されているアイテムの構造を使用して、ユーザーがアイテムを挿入することができます。ブランチ テンプレートは、子孫をすべて含むブランチ テンプレート定義アイテムで構成されています。

ユーザーが挿入オプションからブランチ テンプレートを選択すると、そのブランチ テンプレート定義アイテムの下位に定義されている子孫のコレクションすべてのコピーが作成され、このコレクションがサブアイテムのグループとして現在選択されているアイテムの下位に配置されます。

ブランチ テンプレートの子孫で定義されているフィールド コンテンツはすべてコピーされますが、フィールドとアイテムの名前に割り当てられている `$name` トークンは、挿入の操作時にユーザーが指定した名前に置き換えられます。

次の図は、Sitecore Starter Kit に含まれている Empty Site のブランチ テンプレートを示しています。ブランチ テンプレート定義アイテムの直下にあるのは、`$name` という名前のサブアイテムのみです。このブランチ テンプレートに基づいてアイテムを作成すると、名前を要求され、`$name` トークンは作成されたアイテムの名前に置き換えられます。`$name` アイテムの下に各種のフォルダーおよびアイテムが表示されています。`$name` ルートの下にこれらが作成されると、新しく作成されたアイテムの下にコンテンツの完全なサブセットが作成されます。



6.2.1 ブランチ テンプレートの使用

ブランチ テンプレートを使用すると、ユーザーは事前定義された再利用可能な構造を使用して複数のアイテムを作成しやすくなります。ブランチ テンプレートを使用すると、作成したアイテムに初期のフィールド値をコピーすることもできます (スタンダード バリューからフィールド値を継承するのではなく)。これには、スタンダード テンプレート フィールドのフィールド値 (アイテムのアイコンやアクセス権の割り当てのように、リボン コントロールを介して割り当てられる) と、カスタム データ テンプレートに定義されているフィールド (製品番号など) の両方が含まれます。

ブランチ テンプレートは、コンテンツ オーサーが複数のアイテム (兄弟または子孫) を一度に作成したいときにも便利です。コンテンツの複数のサブツリーは、ブランチ テンプレートを使用して作成することができます。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

ブランチ テンプレートを使用した結果

ユーザーがブランチ テンプレートを呼び出すと、システムで次のような処理が実行されます：

- すべてのフィールド値を含めて、ブランチ テンプレート定義アイテムの子孫がコピーされ、新しいアイテムが作成されます。
- 新しいアイテムでトークン置換が実行され、ブランチ テンプレートの呼び出し時にユーザーが入力する名前によって、アイテム名とフィールド値の両方で `$name` などのトークンが置き換えられます。
- ブランチ テンプレートが 1 つの子アイテムとゼロ以上の子孫で構成される場合、その子の名前は通常 `$name` であるため、ユーザーは作成するルート アイテムの名前を指定することができます。ブランチ テンプレートのアイテム名については、`$name` のみサポートされます。
- ブランチ テンプレートのスタンダード バリューを上書きしないフィールドの場合、新しいアイテムで対応するフィールドにはスタンダード バリューが含まれています。ただし、スタンダード バリューに `$name` などのトークンが含まれ、それも指定されるアイテム名で置き換えられる場合を除きます。

メモ

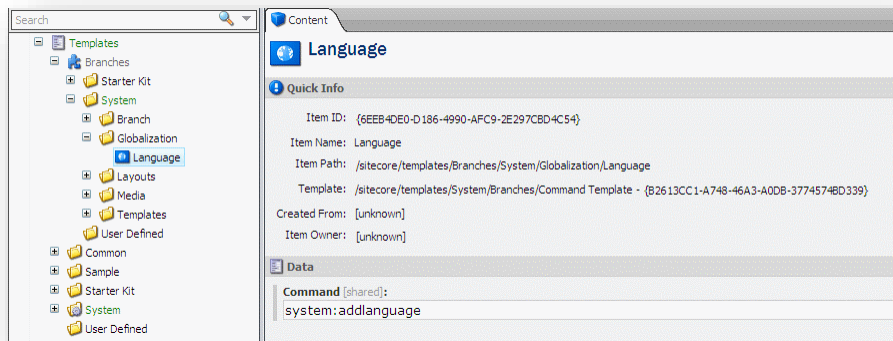
ブランチ テンプレートのフィールド値は、データが重複する原因となることがよくあります。このため、ブランチ テンプレートのフィールド値より、テンプレートのスタンダード バリューの方が優先されるのが普通です。ブランチ テンプレートのフィールド値は、テンプレートスタンダード バリューのように継承されるのではなくコピーされるという点にも注意してください。したがって、ブランチを使用してアイテムを作成した後でそのブランチを変更した場合、以前に作成済みのアイテムには変更が反映されません。

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

6.3 コマンド テンプレート

コマンド テンプレートは、挿入の操作時に呼び出されるクラスとメソッドを定義します。データ テンプレートとブランチ テンプレートは事前定義された構造によって構成されますが、コマンド テンプレートは Sitecore の UI コマンドを参照してウィザードやその他のロジックを呼び出し、新しいアイテムを作成します。

次の図は、新しい言語を作成するときに使用される [言語] コマンド テンプレートを示しています。右ペインには [コマンド] フィールドがあり、そこにコマンド テンプレートを呼び出したときに呼び出されるコマンドの名前 (ここでは `system:addlanguage`) が表示されています。



6.3.1 コマンド テンプレートの使用

コマンド テンプレートを使用すると、事前定義された構造ではなく、ロジックに従ってアイテムを挿入することができます。コマンド テンプレートを使用して、ユーザーが挿入オプションを呼び出すとき複数のアイテムを挿入することもできますが、コマンド テンプレートの方がブランチ テンプレートより柔軟です。

コマンド テンプレートは、アイテムとスタンダード バリュースに挿入オプションとして割り当てることができます。コマンド テンプレートの挿入オプションは、データ テンプレートやブランチ テンプレートの挿入オプションと同じように見えます。唯一の相違は、コマンド テンプレートの挿入オプションが Sitecore UI コマンドをトリガーするという点です。

コマンド テンプレートは通常、ユーザーから情報を収集するウィザード アプリケーションを呼び出し、プログラムの適切なアイテム セットを作成します。

Sitecore で定義されているコマンド テンプレートの例の 1 つには、テンプレートの作成が含まれています：

- `/Sitecore/システム/言語の挿入オプションに、/sitecore/テンプレート/Branches/システム/Globalization/言語 コマンド テンプレートが含まれています。`
- `これが、コントロール パネルで使用される同じコマンドを呼び出し、新しい言語を作成します。`

Sitecore CMS 7.0 以降 データ定義リファレンス

- 各コマンド テンプレートの **[コマンド]** フィールドの値は、`/App_Config/Commands.config` ファイルのエントリーに対応しており、ユーザーがコマンド テンプレートを呼び出すとき、指定されたクラスのメソッドをシステムで呼び出します。